

中川健一メッセージシリーズ

『創世記』 21 回～40 回 メッセージアウトライン

～ メッセージ CD を聴く方のためのガイドブック ～

(このアウトラインだけをお読みになっても、十分に意味を理解することはできません。)

ハーベストフォーラム東京
『定例会』メッセージ

2008 年 11 月～2009 年 4 月



ハーベスト・タイム・ミニストリーズ

定価 1,000 円
(税抜 952 円)

(無断複製・転載を禁じます)

【創世記21】 創世記11章27節～12章3節

「アブラハム契約」

イントロ：

1. 前回までの復習

- (1) 創世記には11の区分(トルドット)がある。
- (2) きょうの箇所は、第6の区分「テラの歴史」である。
- (3) これまでの5つの区分と比べると、非常に長い(11:27～25:11まで)。
- (4) アブラム(アブラハム)の重要性

2. メッセージのアウトライン

- (1) 登場人物の紹介
- (2) 旅の始まり
- (3) 神の命令(1)
- (4) 神の命令(2)

3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) アブラハムと神の友情の始まり
 - ① 彼は、3回「神の友」と呼ばれた(Ⅱ歴20:7、イザ41:8、ヤコ2:23)。
- (2) アブラハム契約の始まり
- (3) イスラエルの民の選びの始まり
- (4) 異邦人の救いの始まり

このメッセージは、4つの始まりを教えようとするものである。

I. 登場人物の紹介

1. テラの3人の息子、アブラム、ナホル、ハラン

2. ロト

- (1) 「ハランはロトを生んだ」という文が挿入されている。
- (2) その理由は、ロトが後に演じる重要な役割のゆえである。
- (3) ロトの父ハランは、若くして亡くなり、アブラムが甥のロトの父親役を務める。

3. ミルカ

- (1) ナホルはミルカを妻に迎える。
- (2) ミルカは兄の娘なので、姪に当たる。

4. サライ

- (1) アブラムはサライを妻に迎える。
- (2) サライは、異母姉妹である。
- (3) 「サライは不妊の女で、子どもがなかった」とある。物語の展開の重要な要素になる。

5. テラ

(1) 偶像礼拝者

「…アブラハムとナホルとの父テラは、昔、ユーフラテス川の向こうに住んでおり、ほかの神々に仕えていた」(ヨシ 24：2)

- (2) 当時ウルは月神礼拝の中心地であった。

II. 旅の始まり

1. アブラムは、「あなたの土地とあなたの親族を離れ、わたしがあなたに示す地に行け」という神の声を聞いた(使7：2～4)。
2. その地がどこかは、この時点では不明。
3. テラとその家族は移動を開始した。
 - (1) 「カナン of 地に行くために」とあるのは、著者の視点。
 - (2) 行き先は分からない。
4. テラは、カランまで来た時、そこに住み着いた。
 - (1) カランは、その地域で最も重要な町の1つで、ウル同様、月神礼拝の中心地。
 - (2) 結局テラは、205歳になるまでカランに留まり、そこで死ぬ。
5. 神の語りかけがアブラムにある。彼は、神からの直接の語りかけを7回受けている。
 - (1) 1回目は、創12：1～3。彼は、カナン of 地の外で神の声を聞いた。
 - (2) 2回目は、創12：7。カナン of 地に入ってから、彼は神の声を聞いた。
 - (3) 3回目は、創13：14～17で、ロトと分かれた直後。
 - (4) 4回目は、創15：1～21で、アブラハム契約締結の時。

- (5) 5回目は、創17:1～21で、アブラハム契約のしるしとして割礼の命令を受けた時。
 - (6) 6回目は、創18:1～33で、ソドムの滅びの予告を受けた時。
 - (7) 7回目は、創22:1～2、11～18で、イサクを犠牲にせよとの命令を受けた時。
6. すべてが、アブラハムの生涯のターニングポイントとなっている。
7. この箇所は、アブラハム契約が初めて紹介される箇所である。

III. 神の命令 (1)

1. 創世記12:1～3の構文 命令形が2度、それに付随した祝福がそれぞれ3度出てくる。
2. 「あなたが『なにになに』をすれば、私はあなたに3つの祝福を与える。その祝福に感謝して、さらにあなたが『なにになに』をすれば、私はさらにあなたに3つの祝福を与える」
3. 最初の命令形 (1節)
- (1) 「行きなさい」：直訳すると、「自分のために行け」となる。
 - (2) 「あなたのためになるから、行け」ということ。
 - (3) 神の祝福の約束は、神が示す地に入ってから有効になる。
 - (4) これは、速やかに今までの生活環境から分離せよという命令である。
 - ① あなたの生まれ故郷 ウル、ハラン
 - ② あなたの親族
 - ③ あなたの父の家 (テラはハランに留まったので、この言葉は重要)
 - ④ 重要性の低いものから最も重要なものへの分離
 - (5) ヘブル11:8「信仰によって、アブラハムは、相続財産として受け取るべき地に出て行けとの召しを受けたとき、これに従い、どこに行くのかを知らないで、出て行きました」
4. 3つの祝福
- (1) アブラムは、大いなる国民となる。大いなる国民とは、イスラエルの民のこと。
 - (2) アブラムは、神の祝福を受ける。霊的祝福と物質的祝福の約束。
 - (3) アブラムの名は、大いなるものとなる。
 - ① ユダヤ教、キリスト教、イスラム教はすべて、アブラハムを信仰の父を仰いでいる。
 - ② バベルの塔の事件では、人々は自力で自分の名を上げようとした(創11:4)。
 - ③ しかし、彼らの上には神の裁きが下った。
 - ④ ここでは、アブラムの従順さに答えて、神が彼の名を上げてくださる。

IV. 神の命令 (2)

1. 第2の命令 (2節)

- (1) 「あなたの名は祝福となる」(新改訳)
- (2) 「あなたは祝福の基となるであろう」(口語訳)
- (3) 「祝福の源となるように」(新共同訳)
- (4) 以上の訳の中で、新共同訳だけが「命令形」として訳している。

2. 「祝福の源となるように」という文は、命令形である。

- (1) アブラムには、周りの人たちを祝福するという使命が与えられた。
- (2) その例が、シャレムの王メルキゼデクに対する祝福。
- (3) 彼はアブラムから祝福を受け、戦利品の10分の1を贈られている(創14章参照)。

3. 3つの祝福

- (1) 「あなたを祝福する者をわたしは祝福する」
 - ① この約束は、後になると、イスラエルの民全体に適用されるようになる(民24:9)。
 - ② この約束は、今も有効である。
- (2) 「あなたをのろう者をわたしはのろう」
 - ① 最初の「のろう」は、ヘブル語の「カラル」で「軽んじる、軽蔑する」という意味。
 - ② 次の「のろう」は、ヘブル語の「アオール」で「垣根を立てる、近づくことを禁止する」という意味。つまり、最初の「のろう」よりも、次の「のろう」の方が強い表現になっている。
 - ③ ユダヤ人を少しでも軽蔑した者は、神から厳しい処置を受ける。
- (3) 「地上のすべての民族は、あなたによって祝福される」
 - ① これが、イスラエルの民以外にまで広がる唯一の祝福である。
 - ② これは、「異邦人の霊的祝福」の預言である。
 - ③ このことは、何度も再確認される。
 - * アブラハムに対して(22:18)
 - * イサクに対して(26:4)
 - * ヤコブに対して(28:14)
 - ④ 預言者たちは、異邦人の祝福は「アブラハムの子孫であるメシア」を通して成就すると預言するようになる(イザ42:1、6、49:6、アモ9:11~12参照)。

結論

1. アブラハムと神の友情の始まり

- (1) 彼は3度、「神の友」と呼ばれた。
- (2) 神の友としての歩みは、分離から始まる。
- (3) 分離のための分離ではなく、祝福をもたらすための分離である。

2. アブラハム契約の始まり

- (1) これ以降の聖書を読み解く大原則である。
- (2) アブラハム契約の啓示は、徐々に行われる。

3. イスラエルの民の選びの始まり

- (1) 最初は、アブラムという個人の選び。
- (2) それが、民族の選びに発展していく。
- (3) 全人類を救うための選びである。

4. 異邦人の祝福の始まり

- (1) ペテロはペンテコステのメッセージで、創12：3を引用している(使3：25)。
- (2) パウロは、創12：3と異邦人の救いを結び付けている(ガラ3：8)。

【創世記22】創世記12章4節～20節

「カナンの地からエジプトへ」

イントロ：

1. 前回までの復習

- (1) 創世記には11の区分(トルドット)がある。
- (2) 第6の区分「テラの歴史」に入っている。
- (3) 「テラの歴史」(11:27～25:11)というのは、アブラム(アブラハム)の記録のこと。

2. メッセージのアウトライン

(1) カナンの地に入るアブラム

- ① 旅立ち
- ② シェケム到着
- ③ ベテル到着
- ④ ネゲブ到着

(2) エジプトに下るアブラム

- ① 苦渋の決断
- ② サライの危機
- ③ 神の介入
- ④ エジプト脱出

3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) ロードムービーを見ているようである。そのまま、私たちの人生である。
- (2) 信仰者の光と影。
- (3) アブラムの存在が今日の状況にまで影響を与えている。

このメッセージは、信仰者の選びが後世に影響を与えることを教えようとするものである。

I. カナンの地に入るアブラム

1. 旅立ち

- (1) 4節は、アブラムが神の命令に従ってただちに行動を起こしたことを示している。
- (2) この従順さによって、創12:1～3が無条件の約束として機能し始める。
- (3) ヘブ11:8

「信仰によって、アブラハムは、相続財産として受け取るべき地に出て行けとの召しを受けたとき、これに従い、どこに行くのかを知らないで、出て行きました」

- (4) 旅立ちの様子(5～6節) 当時の一般的な記述方式にならったもの。
- ① 家の主人である〇〇が、
 - ② 〇〇をともなって、
 - ③ 〇〇を持って、
 - ④ 〇〇に向かって旅立った。
- (5) ここでは、
- ① アブラムが、
 - ② 妻のサライト、おいのロトと、ハランで加えられた僕たちをともなって、
 - ③ すべての財産を持って、
 - ④ カナンの地に向かって旅立った。
- (6) 同様の記述が、創11:31、36:6、46:5～6、出19:2～4に出てくる。

2. シェケム到着

- (1) ついにアブラムは、カナンの地に入った。
- (2) そこは、「シェケムの場」と呼ばれている。異邦人の町シェケムの郊外。
- (3) さらにそこは、「モレの檜の木のところ」と呼ばれている。
- ① 「檜の木」は、ヘブル語で「エロン」。「テレビンの木」とも訳される。
 - ② 「モレ」というのは、「教師」、「占い師」などを意味する。
 - ③ 「モレの檜の木」は、カナン宗教の聖木であり、ここはカナン人の宗教の中心地。
 - ④ アブラムは、ここに最初の宿営を設けた。
- (4) これは、自分の神が偶像神よりも優位に立つお方であることの宣言となっている。
- (5) カナンの地はアブラムに約束されたものであるが、先住民たちが住んでいた。
- ① その人々は偶像礼拝者たちであり、道徳的に墮落していた。
 - ② アブラムは、カナン人の宗教や文化の影響を受けないところに自らを置いた。
- (6) シェケムは、聖書の中では「決断の場所」としてたびたび登場する。
- ① イスラエル人たちは、ここで祝福とのろいの選択を迫られた(申11:29～30)。
 - ② このシェケムでソロモン王国の分裂が決定的になった(1列12章)。
- (7) 主の顕現(7節)
- 「そのころ、主がアブラムに現れ、そして『あなたの子孫に、わたしはこの地を与える』と仰せられた。アブラムは自分に現れてくださった主のために、そこに祭壇を築いた」
- ① これは、神からの2度目の直接的語りかけ。
 - ② 「主が現れ」とあるが、これは神の「顕現(目に見える形で現れること)」のこと。
 - ③ 創世記にはこれ以外に5回ある(創17:1、18:1、26:2、24、35:9)。
 - ④ この時神は、アブラハム契約の再確認をされた。
 - ⑤ その内容は、土地の約束はアブラムの子孫に与えられたというもの。

- ⑥ 注目すべきは、アブラムにはその土地が約束されていないことである。
- (8) アブラムの応答は、祭壇の建築。
 - ① モレの樫の木のところに、主への祭壇(真の神への祭壇)を築いた。
 - ② その理由は、「主が彼に現れたから」である。
 - ③ これ以降、祭壇を築くことが族長たちの習慣となる。
(創12:8、13:18、22:9、26:25、33:20、35:7など参照)。

3. ベテル到着

- (1) ベテルの東にある山のほうに移動して、そこで天幕を張る。
- (2) 西にはベテル、東にはアイがあった。
- (3) つまり彼は、町から離れた場所に天幕を張った。
- (4) そこで彼は、2つのことをしている。
 - ① 祭壇を築いた。主への犠牲を捧げるため。
 - ② 主の御名によって祈った。カナンの地で公の礼拝を始めたということ。

4. ネゲブ到着

- (1) 彼はさらに進んで、ネゲブ(南)へ移動した。
- (2) これまで彼は、シェケム、ベテルなどの山地の町々の近くを移動した。
- (3) ネゲブ地方はそこよりもはるかに人口の少ない場所。
- (4) 彼はますますカナン人から分離していった。
- (4) アブラムの移動は、山地の分水嶺を北から南に向かって下るものであった。
 - ① エフライムの山地から
 - ② ユダの山地へ、
 - ③ そして、ネゲブへ。
- (5) そうすることによって、彼はカナンの地への所有権を主張していた。
- (6) カナン人との接触はない。会話も対立もない。居住地の周辺を移動していたから。
- (7) この移動は、信仰による移動であった。
 - ① その地はまだアブラムの所有物になってはいない。
 - ② 彼は神の約束を信じて、移動している。
 - ③ ヘブ11:9
「信仰によって、彼は約束された地に他国人のようにして住み、同じ約束とともに相続するイサクやヤコブとともに天幕生活をしました」

II. エジプトに下るアブラム

1. 苦渋の決断

- (1) アブラムの信仰が試される。
- (2) 「ききん」という言葉が2度出てくる。ききんの激しさが強調されている。
- (3) ついにアブラムは、エジプトに下る決心をする。
 - ① 永住の意図はない。
 - ② しばらく滞在するだけという判断。
 - ③ いかなる境遇にあっても神の守りがあるという信仰はまだない。
- (4) これが、重大な結果を引き起こすことになる。

2. サライの危機

- (1) アブラムにはある恐れがあった。
 - ① この時代のエジプト人は、他人の妻を略奪することで有名。
 - ② サライは65歳になっていたが、見目麗しい女であった。
 - ③ 当時の平均寿命は、およそ今の倍。サライは年齢よりもはるかに若く見えた。
 - ④ アブラムは、自分が殺されるかもしれないという恐れを抱いた。
- (2) そこで彼は、異母妹であった妻サライを妹だと言うことにした。
 - ① これは、半分の真実である。
 - ② 当時の習慣によれば、父が死んだ後は兄が妹の保護者となる。
 - ③ 他の男性から結婚の申し出があれば、兄に花嫁料についての交渉権がある。
 - ④ エジプト人が結婚を申し込んできたなら、交渉している間に逃亡することができる。
- (3) サライの美しさが再度強調されている(14節)。
- (4) サライに関する情報は、一般のエジプト人、政府の高官、パロへと伝わった。
- (5) アブラムが想定していなかったことが起こった。
- (6) パロが、アブラムと交渉することなしに、サライを宮廷(ハーレム)に召し入れた。
- (7) パロは、当時の習慣に従ってアブラムに花嫁料を払った。
 - ① 羊の群れ、
 - ② 牛の群れ、
 - ③ ろば、
 - ④ 男の奴隷、
 - ⑤ 女の奴隷、
 - ⑥ 雌ろば、
 - ⑦ らくだ

3. 神の介入

- (1) アブラハム契約がサタンの攻撃を受けている。
- (2) 神の解決法
 - ① 悪いのはパロではなく、アブラムである。
 - ② しかし、神はパロを裁かれた。
 - ③ その理由は、アブラハム契約が無条件契約であるから。
 - ④ アブラハム契約の条項の中に、「あなたをのろう者をわたしはのろう」がある。
 - ⑤ この条項に基づいて、パロが罰を受けている。
 - ⑥ ユダヤ教の伝統では、この「災害」は重い皮膚病だとされている。
- (3) パロの反応
 - ① サライの告白か、神の啓示か、彼はサライがアブラムの妹であることを発見した。
 - ② パロは3つの質問をしている。
 - * あなたは私にいったい何ということをしたのか。
 - * なぜ彼女があなたの妻であることを、告げなかったのか。
 - * なぜ彼女があなたの妹だと言ったのか。

4. エジプト脱出

- (1) パロは、そのままアブラムとサライをエジプトから去らせた。
 - ① 今までの経緯から、アブラムの神が恐るべきお方であることを学んでいた。
 - ② パロの部下たちは、国境までアブラムの一行を見送った。
 - ③ 礼を尽くしたのだが、エジプトに再入国させないようにとの意図もある。
- (2) その結果、アブラムは以前よりも裕福になってカナンの地に戻ってきた。
- (3) カナンの地に入った時点で、子孫の約束が成就し得る状態に戻った。
- (4) この事件の背後には、サタンの暗躍があった。

結論

1. 物質的な繁栄は、必ずしも神の祝福の結果とは言えない。
 - (1) アブラムは、多くの家畜を所有したために、ロトと共存できなくなった。
2. 小さな失敗が大きな問題につながる。
 - (1) エジプトの女奴隷ハガルは、この時手に入れたと思われる。
 - (2) サライとハガルの葛藤 (16章)
 - (3) イサクとイシュマエルの葛藤 (21章)
 - (4) 今日のユダヤ人とアラブ人の葛藤

【創世記23】創世記13章1節～18節

「ロトとの分離」

イントロ：

1. 前回までの復習
 - (1) 第6の区分「テラの歴史」に入っている。
 - (2) 「テラの歴史」(11：27～25：11)の内容は、アブラハムの物語。
 - (3) 前回は、エジプトに下ったアブラムの話を取り上げた。
2. メッセージのアウトライン：祝福への道
 - (1) 立ち返り
 - (2) ロトとの分離
 - (3) 祝福
3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。
 - (1) 失敗者が立ち直っていくステップ
 - (2) 信仰者の成長のステップ
 - (3) アブラムの経験は、極めて普遍的なものである。

このメッセージは、信仰者の成長のステップを教えようとするものである。

I. 立ち返り

1. エジプトからネゲブへ移動
 - (1) ネゲブとは、カナンの地の南部の乾燥地帯のこと。
 - (2) 妻のサライ、すべての所有物、そしてロトを伴って移動。
 - (3) 甥のロトもアブラムといっしょにエジプトに下っていたことが分かる。
 - (4) アブラムは、家畜、銀、金に非常に富んでいた。
 - (5) アブラハム契約の祝福の条項が働き始めたことを示している。
2. ネゲブからベテルへ移動
 - (1) 南から北に移動。
 - (2) ベテルとは中央高原に位置する町で、ネゲブよりもはるかに緑の多い所。
 - (3) そこは、彼がカナンの地に来てから、最初の公の礼拝を捧げた所。

創12：8「彼はそこからベテルの東にある山のほうに移動して天幕を張った。西にはベテル、東にはアイがあった。彼は主のため、そこに祭壇を築き、主の御名によって祈った」
 - (4) 「主の御名によって祈る」とは、公の礼拝を捧げること。

3. 立ち返りの内容

- (1) 彼は、地理的に元の場所に立ち返った。
- (2) 彼は、靈的に最初の愛に立ち返った。

II. ロトとの分離

1. エジプトで得た富

- (1) ロトもまた、裕福になっていた。
- (2) 羊の群れや牛の群れ、それに天幕を所有していた。
- (3) 「天幕を所有している」とは、大勢の奴隷を所有していたことを示している。
- (4) 物質的祝福は、アブラムとの関係のゆえ（アブラハム契約の条項の1つ）。
- (5) アブラムもロトもともに裕福になったために、新しい問題が起こってきた。

2. 紛争の勃発

- (1) アブラムとロトの関係は、平和的なものであった。
- (2) アブラムの牧者とロトの牧者の間に争いが起こった。
- (3) 家畜を飼う土地が狭すぎたために問題が起こった。
 - ① 当時のカナン之地には、多くの都市国家が存在していた。
 - ② アブラムとロトが自由に移動できる地域は限定されていた。
- (4) その地には、カナン人とペリジ人が住んでいた。
 - ① カナン人とは、この地に住む人々の総称。
 - ② ペリジ人とは、カナン人の中の1つの民族。

3. アブラムの提案

- (1) 争いを避ける。

創 13: 8 「どうか私とあなたとの間、また私の牧者たちとあなたの牧者たちとの間に、争いがないようにしてくれ。私たちは、親類同士なのだから」

- ① 「争い」という言葉は、ヘブル語では「メリバ」。
- ② これと同じ言葉が、出 17: 7 に出てくる。

「それで、彼はその所をマサ、またはメリバと名づけた。それは、イスラエル人が争ったからであり、また彼らが、『主は私たちの中におられるのか、おられないのか』と言って、主を試みたからである」

- ③ 民 20: 13、24、27: 14、詩 81: 7、95: 8 なども参照。
- ④ メリバ（争い）は普通名詞から、固有名詞となった。

- (2) ロトに選択権を譲る。
 - ①「全地はあなたの前にあるではないか」
*これは修辭的な問い。答えを期待したものではない。
 - ②「私から分かれてくれないか」
 - ③「もしあなたが左に行けば、私は右に行こう。もしあなたが右に行けば、私は左に行こう」
- (3) アブラムは富を所有していたが、富はアブラムを所有していなかった。
- (4)13章のアブラムは平和の人。14章のアブラムは戦争の人。すべてロトのためである。

4. ロトの選び

- (1) ロトは富を所有していたが、富もまたロトを所有していた。
- (2) ロトは目を上げて見渡した。
 - ①創13:10「ロトが目を上げてヨルダンの低地全体を見渡すと」
 - ②ロトは、何が自分にとって最善であるかを判断するために、見渡した。
 - ③ふたりが立っている中央山地の場所からは、東と西の両方がよく見渡せる。
- (3) 彼は、信仰の目ではなく、肉の目を上げている。
- (4) ヨルダンの低地は、エデンの園のように潤い、魅力的に見えた。
 - ①「低地」という言葉は、ヘブル語ではキカル(丸い地域、サークルなどの意)。
 - ②今日では、ヨルダンの低地は乾燥した地帯。
 - ③ソドムとゴモラが滅ぼされる以前は、緑豊かな土地。
- (5) ロトは、アブラムに敬意を表することもなく、ヨルダンの低地を選び、東に移動。
- (6) やがて彼は、ソドムの近くにまで天幕を張るようになる。
- (7) ロトが、ソドムの町に入るのは、もはや時間の問題となった。

5. その後のロトの歩み

- (1) 自分にとって最善の場所を選ぼうとして、肉の目を上げた(創13:10)。
- (2) 良い地を選び、東の方に移動して行った(創13:11)。
- (3) ソドムの近くに天幕を張った(創13:12)。
- (4) ソドムに住んだ(創14:11~12、IIペテ2:7~8)。
- (5) ソドムの門のところに座るまでになった(創19:1)。町の長老となったということ。

6. ソドムに対する神の評価

- (1)創13:13「ところが、ソドムの人々はよこしまな者で、主に対しては非常な罪人であった」
- (2)「よこしまな者」とは、ヘブル語で「ライーム」。
- (3) ソドムの町は墮落していたが、ロトがそれに気付いていたかどうかは分からない。

(4) ノアの物語との対比

- ① 創6：5
- ② 人類一般が悪に染まったため、その悪を取り除く必要が生じた。
- ③ 大洪水は、その悪を取り除く手段であった。
- ④ その結果、1人の人と、1家族だけが救われた。
- ⑤ ソドムの場合も、1人の人と、1家族だけが救われた。

III. 祝福：アブラハム契約の再確認

1. 主からの語りかけ

- (1) タイミング：「ロトがアブラムと分かれて後」。ロトが最善の地を取った後。
- (2) これは3回目の語りかけ（アブラハム契約については2回目）。
「さあ、目を上げて、あなたがいる所から北と南、東と西を見渡しなさい」
- (3) ロトは自分で目を上げたが、アブラムは神の命令によって目を上げる。

2. 語りかけの内容

- (1) 「さあ」という言葉：「ナー」
- (2) 旧約聖書に406回、創世記に74回出てくる。
- (3) 嘆願、勧め、丁寧な言葉
創12：11、創12：13、創13：8、9
- (4) 神が人に語る場合で、この言葉が用いられている例は4回しかない。
 - ① 神が人間に、理解を超えたことをするように求める場合。
 - ② 創13：14で、神は初めて「ナー」という言葉を使っている。
 - ③ 直訳するとこうなる。
「どうか目を上げて、あなたがいる所から北と南、東と西を見渡してください」
 - ④ 他の3つの例
 - * 創15：5 息子の約束に関して、天を見上げるように
 - * 創22：2 イサクを犠牲にするように
 - * 出11：2 エジプト人から贈り物を集めるように
- (5) アブラムは、4つの方向を見るように命じられた。
 - ① それは、ロトが選んだ地も含む。
 - ② そこを、神はアブラムとその子孫に約束した。
 - ③ アブラムもまた、いつかその地を所有するようになる。
- (6) 子孫の約束
- (7) その地を縦と横に歩き回るように命じられた。

- ① アブラムこそ、初めて聖地旅行をした人物である。
- ② これは、預言的行為。成就是、メシア的王国において。
- ③ 無千年王国説では、この聖句は解説できない。

3. その後のアブラム

- (1) 天幕を移した。依然として天幕生活をしている。
- (2) ヘブロンにあるmamreの檜の木のそばに住んだ。
 - ① 創12:6と似ている。シェケムの場合、モレの檜の木のところ。
 - ② 創13:18ではmamreの檜の木のそば。偶像礼拝の場。
 - ③ 創14:13によれば、「mamre」とは、その地の所有者エモリ人mamreの名前。
 - ④ 創18:1では、アブラムはここでソドムのために執りなしをする。
 - ⑤ 創23:17~19では、アブラムはこの近くにマクペラの墓地を購入する。
- (3) ヨシ14:15「ヘブロンの名は、以前はキルヤテ・アルバであった」
 - ① 「アルバの町」、あるいは「4人の町」
 - ② ヘブロンへの改名。「友人(ハベル)」という言葉から来ている。
 - ③ 新しい名前が、アブラムにちなんで付けられた。アブラムは、神の友。
- (4) そこに主のための祭壇を築く。
 - ① 偶像礼拝の中心地に、真の神の祭壇が築かれた。
 - ② アブラムは、霊的な所有権を宣言している。

結論

1. 立ち返り：黙2：4～5

エペソの教会に次のことばが伝えられた。

「しかし、あなたには非難すべきことがある。あなたは初めの愛から離れてしまった。それで、あなたは、どこから落ちたかを思い出し、悔い改めて、初めの行いをしなさい。もしそうでなく、悔い改めることをしないならば、わたしは、あなたのところに行って、あなたの燭台をその置かれた所から取りはずしてしまおう」

2. ロトとの分離

- (1) ロトは異分子であった。
- (2) パリサイ人やサドカイ人のパン種に注意(マタ16:6)
- (3) つり合わぬくびき(IIコリ6:14)

3. 祝福(アブラハム契約の再確認)

- (1) 私たちは、福音に対して理性を超越した応答をした。
- (2) 次は、神の約束に対しても理性を超越した応答をするように期待されている。

【創世記24】 創世記14章1節～24節

「戦士アブラム」

イントロ：

1. 前回までの復習

- (1) 第6の区分「テラの歴史」、アブラハムの物語が続いている。
- (2) 前は、アブラムがロトから分離したことを学んだ。
- (3) 今回は、平和の人アブラムが、戦士アブラムとして活躍することを学ぶ。
- (4) 人名が多いので、混乱しないように。主役と脇役とを区別しておく。

2. メッセージのアウトライン

- (1) ロトが主役。
4人の王と5人の王は脇役。
- (2) アブラムが主役。
mamレ、エシュコル、アネルは脇役。
- (3) メルキゼデクが主役。
ソドムの王は脇役。

3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) 新約聖書で展開される霊的真理の萌芽が見られる。
- (2) それぞれの生き方から教訓を学ぶ。

このメッセージは、新約聖書で展開される霊的真理を学ぼうとするものである。

I. ロト

1. ロトとその財産は、奪い去られた。

- (1) 創13:12では、ロトはソドムの近くまで天幕を張っていた。
- (2) 創14:12では、ソドムに住むようになった。

2. 聖書に記されている最初の戦争

- (1) 4人の王：侵略者たち（すべて非ヘブル名）
 - ① シヌアルの王アムラフェル（バビロニアの王）
 - ② エラサルの王アルヨク（南バビロニアの王）
 - ③ エラムの王ケドルラオメル（ペルシャの王）
 - ④ ゴイムの王ティゲアル（ヘテ人の王）

(2) 5人の王：迎え撃つ者たち（13年目の反乱）

- ① ソドムの王ベラ
- ② ゴモラの王ビルシャ
- ③ アデマの王シヌアブ
- ④ ツェボイムの王シェムエベル
- ⑤ ツォアルの王

(3) 戦場

- ① ゴラン高原からヨルダン川の東で行われた（キングズ・ハイウェイを通過）。
- ② シディムの谷、塩の海（死海）
- ③ 南から北に引き返し、カデシュ・バルネア、エン・ゲディに至った。
- ④ 後にアモン人とモアブ人（ロトの子孫）、エドム人（イサクの子孫）の居住となる地区。

(4) 戦争の結果

- ① 多くの瀝青の穴が散在していた（町を建設するための建材）。
- ② ソドムの王とゴモラの王は、穴に落ちた。
- ③ 残りの3人の王たちは、山の方に逃げた。
- ④ 侵略者たちは、ソドムとゴモラの全財産と食料全部を奪って行った。
- ⑤ ロトとその財産も奪い去った。

II. アブラム

1. 平和の人から戦士への転換

- (1) 甥のロトの最善を願っている。
- (2) アブラムが戦士となっているのは、創14章のみ。

2. 戦いの開始

- (1) 逃亡者からの情報
- (2) ヘブル人アブラム
 - ① 聖書で初めて、ヘブル人という言葉が登場（ハ・イブリ）。
 - ② 旧約聖書に35回。常に、民族的アイデンティティを指す。
- (3) エモリ人マムレは、エシュコルとアネルの親類。
- (4) アブラムは、彼らと盟約を結んでいた。
 - ① 契約関係にあったという意味。
 - ② 彼らが、アブラムの神を信じていた可能性が大である。
 - ③ 戦いが起こると、同盟軍として参加する。

3. 戦略

- (1) アブラムは、訓練を受けたしもべども 318 人を招集し、ダンまで追跡した(最北の地)。
- (2) 夜の奇襲
- (3) 軍を分けて戦う。
- (4) ダマスコの北にあるホバまで追跡した。

4. 戦いの結果

- (1) アブラムは、すべての財産を取り戻し、捕虜たちを解放した。
- (2) ロトとその財産も含まれていた。
- (3) 解放された町々の住民たちは、霊的な応答を忘れていた。
 - ① 罪を悔い改め、アブラムの神に立ち返ることをしなかった。
 - ② 14章では、生きたまま助かった。
 - ③ 19章では、全員が裁かれ、死んでいる。

5. アブラハム契約との関係

- (1) アブラムは周りの人たちに、祝福を届けている。
- (2) アブラムを祝福する者は、祝福される(メルキゼデク)。
- (3) アブラムを呪う者は、呪われる(4人の王たち)。

III. メルキゼデク

1. 2人の王の登場

- (1) シャベの谷(ケデロンの谷)
- (2) ソドムの王
- (3) シャレムの王メルキゼデク(義なる王)

2. ソドムの王

- (1) ソドムの王の提案
「人々は私に返し、財産はあなたが取ってください」
- (2) 当時の法律では、取り返した人々は、アブラムのもの。
- (3) アブラムは、ソドムの王の許可を必要としない。
- (4) アブラムは、申し出を拒否した。
- (5) 例外を設けたが、それは自分のためではなく、周りの人のため。
 - ① 若者とは、318人のこと。
 - ② アネルとエシュコルとマムレには、分け前を取らせた。
 - ③ アブラムは祝福となっている。
- (6) ソドムの王もまた、19章で滅びてしまう。

3. メルキゼデク

(1) シャレムの王。エブス人の町。

(2) いと高き神の祭司

① 祭司とは、「コーヘン」。旧約聖書に750回。その最初のもの。

② ユダヤ人の名前。Katzも変形。

③ アロンの男系子孫とされ、実際Y染色体の研究から大部分の人が共通の男系祖先に遡る可能性が高いと言われている。

④ 「いと高き神」がこの箇所です4回出てくる。それ以外には、詩78:35のみ。

⑤ アブラムの家以外に、真の神を信じる人々がいたことを示している。

⑥ メルキゼデクは、真の神の祭司であった。カナン人の偶像礼拝ではない。

(3) パンとぶどう酒を持って来た。

(4) 祭司的役割を果たしている。

① 祭司とは、神と人の間に立つ「人間」である。

② 彼は、神に代わってアブラムを祝福している。

* アブラムを神のしもべとして認めている。

③ 彼は、アブラムに代わって神を称えている。

* 勝利は、神から来たことを認めている。

(5) アブラムはメルキゼデクに、10分の1を与えた。

① 十一献金の教えではない。

② 自発的

③ 一度限り

④ 収入からではなく、戦利品から

(6) メルキゼデクは、神の顕現ではない(受肉前のキリストではない)

① 顕現の場合は、現れ、消える。地上での職務はない。

② しかし、メルキゼデクは、王であり祭司である。

* 12～22章では、神のことばがないのはこの章だけ。メルキゼデクが代理。

* 詩110:4にその名が出てくる。

* ラビ的伝承では、メルキゼデクはノアの息子のセムである。

(7) 新約聖書とメルキゼデク

① ヘブル5:6～10、6:20～7:28

② メルキゼデクは、メシアの型。

* 王であり祭司である。レビ的祭司ではあり得ないこと。

* メルキゼデク的祭司では可能。

- *ヘブル7：3「父もなく、母もなく、系図もなく、その生涯の初めもなく、いのちの終わりもなく、神の子に似た者とされ、いつまでも祭司としてとどまっているのです」
- *系図がないということ。

結論

1. ロトからの教訓

- (1) 物に執着している人の悲劇
- (2) 現在の金融危機、不況は、私たちに何をもたらすのか。

2. アブラムからの教訓

- (1) 人との盟約の強さ
- (2) 神との盟約の絶対性
- (3) 友情契約、あるいは、血の契約の内容
- (4) アブラハム契約の有効性

3. メルキゼデクからの教訓

- (1) 真の祭司の型
- (2) アロンの家系から出るレビ的祭司とは異なる祭司
- (3) イエス・キリストこそ私たちの大祭司
 - ① 受肉の必要性
 - ② 受難のしもべ
 - ③ ヘブル4：15、16

「私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯されませんでした。すべての点で、私たちと同じように、試みに会われたのです。ですから、私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか」

【創世記25】創世記15章1節～6節

「アブラムの義認」

イントロ：

1. 前回までの復習

- (1) 第6の区分「テラの歴史」、アブラハムの物語が続いている。
- (2) 人類は、3回大失敗をした。
- (3) 第4の方法：神はアブラムを選び、彼とその子孫を通して全人類を救おうとされた。
- (4) これまでのアブラムの歩み
 - ① 神から、子孫、土地、祝福の約束を受けた。
 - ② それを信じて、カルデア人のウルから約束の地に向かった。
 - ③ 約束の地に着いて、各地に祭壇を築いた。
 - ④ 飢饉をさけるために、エジプトに下った。
 - ⑤ 約束の地に帰り、ロトと分離した。
 - ⑥ ロトを救出するために、4人の王たちと戦った。

2. きょうの箇所は、その戦いの後のことである。

- ① アブラハム契約の確認になっている。
- ② アブラハム契約の子孫の要素：15：1～6
- ③ アブラハム契約の土地の要素：15：7～21

3. メッセージのアウトライン

- (1) What does it say? 何を言っているか。
- (2) What does it mean? どういう意味か。
- (3) What does it mean to me? 私とどういう関係があるか。
特に、新約聖書の教えからきょうの箇所を見たい。

4. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) 聖書が教える救いとは何かを教えている。
- (2) 異端と言われる宗教は、すべてこれから外れている。
- (3) クリスマンと自称していても、これから外れているなら、救われていない。
- (4) どの宗派に属しているかは問題ではない。真の信仰があるかどうかの問題である。
- (5) その単純さのゆえに、疑いを抱く人が多い。真理とは単純なものである。

このメッセージは、聖書が教える救いとは何かを教えている。

I. What does it say? 何を言っているか。

1. 「これらの出来事後」14章の王たちとの戦いの後

- (1) 3度目のアブラハム契約の確認が与えられる。
- (2) 神がアブラムに現れるのは4度目。
- (3) 今回は、「主のことば」が臨んだ。「主のことば」が初めて聖書に出てくる。
- (4) 「幻」のうちに。アブラハム契約が正式に締結される。

2. 最初のことば。「アブラムよ。恐れるな」

- (1) 聖書に出てくる最初の「恐れるな」である。
- (2) イサクに対して 創26:24。
- (3) ヤコブに対して 創46:3。
- (4) 族長たちは、人生のある時点で恐れを感じた。
- (5) アブラムの場合は、英雄的な勝利の後での恐れである。

3. 恐れる必要がない2つの理由

(1) 「わたしはあなたの盾である」

- ① 4人の王からアブラムを守ったのは、神ご自身である。
- ② 神を盾にたとえる最初の例である。
- ③ 「盾」はヘブル語で「マーゲン」である。
 - * ダビデの盾 (マーゲン・ダヴィッド)、あるいは、ダビデの星。
 - * しかし、聖書は「ダビデの盾」については何も語っていない。
 - * あるのは、「アブラムの盾」だけである。

(2) 「あなたの受ける報いは非常に大きい」

- ① 神ご自身が報いである。
- ② 神が与える財もまた報いである。
- ③ アブラムは戦利品を受け取ることを拒否したが、神からの祝福を受けている。

4. ここは、神とアブラムの初めての会話である。

(1) 「神、主よ」ヘブル語では「アドナイ・ヤハウエ」、「私の主、ヤハウエよ」となる。

- ① 「アドナイ」と「ヤハウエ」が連結して出てくる最初の例。
- ② この章では、2回出てくる(8節)。
- ③ モーセの律法では、申3:24と9:26のみ。

- (2) 「私に何をお与えになるのですか。私には子がありません」
 - ① アブラムの恐れの原因：財産は十分にあるが、相続させる子がいない。
- (3) 「私の家の相続人は、あのダマスコのエリエゼルになるのでしょうか」
 - ① ハムラビ法典や古代メソポタミア・ヌジ遺跡出土文書の規定と同じ。
 - ② 子のない夫婦は、奴隷を養子にして、相続人とすることができる。
- (4) 「あなたはわたしに子を賜わないので」
 - ① 再度、恐れについて語る。
- (5) 「わたしの家に生れたしもべが、あとつぎとなるでしょう」
 - ① エリエゼルは、ダマスコから来た奴隷の息子。
 - ② そして、アブラムの家で生まれた。

5. 次に、神の約束が与えられる。「主のことば」が2度目に出てくる。

- (1) 否定的な内容：「その者があなたの跡を継いではならない」
- (2) 肯定的な内容：「ただ、あなた自身から生まれ出て来る者が、あなたの跡を継がなければならない」
- (3) この時点では、サライがその子の母であるとは言われていない。

6. ここまでは天幕の中。神はアブラムを天幕の外に連れ出し、こう言われた。

- (1) 「さあ、天を見上げなさい。星を数えることができるなら、それを数えなさい」
 - (2) もちろん、アブラムは数えられない。
 - (3) そこで、さらにこう言われた。「あなたの子孫はこのようになる」
 - (4) 「地のちり」と「空の星」について
 - ① 創13：16「わたしは、あなたの子孫を地のちりのようにならせる。もし人が地のちりを数えることができれば、あなたの子孫をも数えることができよう」
 - ② 「地のちり」と「空の星」とは同義である。数えられないほどの多数。
 - ③ 前者を地上の民イスラエル、後者を霊的民である教会と解釈するのは間違い。
 - ④ ここでの文脈は、アブラムの肉の子の話である。
 - ⑤ 地のちり 創28：14
 - ⑥ 空の星 創15：5、22：17、26：4
 - ⑦ 海辺の砂 創22：17、32：12
- 創22：17「わたしは確かにあなたを大いに祝福し、あなたの子孫を、空の星、海辺の砂のように数多く増し加えよう。そしてあなたの子孫は、その敵の門を勝ち取るであろう」

7. アブラムは義とされた(6節)。

II. What does it mean? どういう意味か。

1. 「彼は主を信じた。主はそれを彼の義と認められた」(6節)

2. 聖書の救済論(救いの教理)が示されている。

(1) 信じた。

① 創12:1から、アブラムには信仰があった。

② ここは、彼が主の約束のことばを信じたということである。

③ つまり、アブラハム契約を信じたのである。

(2) 神の応答

① 認めた。「帰した」。

② 義と。

3. 誤った救いの理解

(1) 旧約時代の聖徒たちは、十字架を待ち望む信仰によって救われている。

(2) 新約時代の聖徒たちは、十字架を振り返る信仰によって救われている。

4. 救いの原則は不変である。

(1) 信仰の対象は、神。

(2) 信仰の内容は、その時に啓示された約束。

(3) 救いの方法は、信仰により恵みによる。

III. What does it mean to me? 私とどういう関係があるか。

1. ロマ4:3

(1) アブラハムは、行いによってではなく、信仰によって救われた。

(2) 「聖書は何と言っていますか。『それでアブラハムは神を信じた。それが彼の義とみなされた』とあります」

2. ガラ3:6

(1) アブラハムは、律法を行うことによってではなく、信仰によって救われた。

(2) 「アブラハムは神を信じ、それが彼の義とみなされました。それと同じことです」

3. ヤコ2:21~23

(1) アブラハムは、イサクをささげたことにより、その信仰が本物であることが証明された。

- (2) 換言すれば、彼の信仰の成長が証明されたということである。
- (3) 「私たちの父アブラハムは、その子イサクを祭壇にささげたとき、行いによって義と認められたではありませんか。あなたの見ているとおり、彼の信仰は彼の行いとともにも働いたのであり、信仰は行いによって全うされ、そして、『アブラハムは神を信じ、その信仰が彼の義とみなされた』という聖書のことばが実現し、彼は神の友と呼ばれたのです」

結論

- 1. What does it say? 何を言っているか。
 - (1) アブラハム契約の再確認。
 - (2) アブラムは、神の約束を信じた。

- 2. What does it mean? どういう意味か。
 - (1) 人が救われる方法は不変である。
 - (2) 信仰により、恵みによって救われる。

- 3. What does it mean to me? 私とどういう関係があるか。
 - (1) 創15:6は、新約聖書と直結している。
 - (2) 私たちの場合は、信仰の内容が変化している。
 - (3) 福音の3要素
 - ① キリストが私たちの罪のために死なれた。
 - ② 墓に葬られた。
 - ③ 3日目に復活された。
 - (4) 神は救いの道を用意された。
 - (5) 私たちの責務は、それを信じることである。

【創世記26】創世記15章7節～21節

「アブラハム契約の締結」

イントロ：

1. 前回までの復習

- (1) 神はアブラムを選び、彼とその子孫を通して全人類を救おうとされた。
- (2) アブラムは神からの召しに応答し、ウルを出てカナンの地に住むようになった。
- (3) 前回は、アブラムの義認について学んだ。
 - ① 彼は、自分の子孫が星の数ほどに増えるという神の約束を信じた。
 - ② それは、アブラハム契約を信じたことと同じである。
 - ③ その信仰のゆえに、アブラムは義と認められた。

2. きょうの箇所

- (1) 子孫についての預言が与えられる。
- (2) アブラハム契約が締結される。
- (3) 与えられる土地の範囲が明確になる。

3. メッセージのアウトライン

- (1) 契約の準備
- (2) 子孫に関する預言
- (3) 契約の締結
- (4) 土地に関する預言

4. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) アブラハム契約は、今も有効である。
- (2) イスラエルに与えられた約束は、今も有効である。
- (3) 異邦人の救いは、アブラハム契約の一部である。

このメッセージは、アブラハム契約が聖書を読み解く鍵であることを教えている。

I. 契約の準備

1. 契約の形式 出20：2

「わたしは、あなたをエジプトの国、奴隷の家から連れ出した、あなたの神、主である」

- (1) これはモーセ契約の「前書き」である。
- (2) 当事者が、名を名乗る。

2. 創世記15:7は、アブラハム契約の「前書き」

「わたしは、この地をあなたの所有としてあなたに与えるために、カルデヤ人のウルからあなたを連れ出した主である」

(1) 「わたしは、主である」

(2) ヤハウエ(4文字)。契約を守る神。

① 14章では、神はアブラムの盾。

② 15章では、神は、アブラムに息子を与えるという約束を守る方。

(3) アブラハム契約は、12章、13章で何度か出てきたが、15章で正式な締結となる。

3. アブラムの応答

「神、主よ。それが私の所有であることを、どのようにして知ることができましょうか」

(1) 子孫が罪を犯したなら、約束の地に入れなくなるのではないかと、恐れた。

(2) つまり、アブラハム契約が無条件契約であることの確認を求めているのである。

4. 神の回答

「わたしのところに、三歳の雌牛と、三歳の雌やぎと、三歳の雄羊と、山鳩とそのひなを持って来なさい」

(1) 通常は、1匹の家畜。ここでは、5種類のいけにえ。

(2) この契約の厳粛さと重要性を示している。

(3) これは血の契約である。

(4) ラビの解釈:彼の恐れに対して、「罪の贖いが用意されている」という神からの回答。

5. 4種類の契約

(1) 手の契約 エズ10:19(原文では「手を与える」とある)、エゼ17:18(口語訳参照)

① 合意した時に、握手をするか、腰を打つ。

(2) 靴の契約 ルツ4:7~12

① 合意した時に、靴(サンダル)を交換する。

② その契約は、靴を元のように返すまで有効。

(3) 塩の契約 レビ2:13、民18:19、Ⅱ歴13:5

① 相手の塩袋に手を入れて、一つまみ取り、それを自分の塩袋に入れる。

② 塩は元に戻らない。

(4) 血の契約

① 最も厳粛な契約。

② 動物を切り裂き、両側に並べ、当事者がその間を歩く。

③ 違反したなら、命をもって償うという契約。

④ アブラハム契約は、血の契約である。

6. アブラムの従順

「彼はそれら全部を持って来て、それらを真っ二つに切り裂き、その半分を互いに向かい合わせにした。しかし、鳥は切り裂かなかった」

- (1) 血が流されている。血の契約である。
- (2) 猛禽を死体から追い払うアブラム。
- (3) 不吉な予感。
- (4) 契約の内容には、1つ不吉な要素がある。エジプトで奴隷となる。

II. 子孫に関する預言

1. アブラムの状態

- (1) 「日が沈みかかったころ」(12節)。5節以降、丸1日が経過している。
- (2) 「深い眠り」。これは、幻を見るための眠りである。アブラムには意識がある。
 - ① 同じ眠りが、創2:21にあった。

「神である主は深い眠りをその人に下されたので、彼は眠った。そして、彼のあばら骨の一つを取り、そのところの肉をふさがれた」
 - ② 「ひどい暗黒の恐怖が彼を襲った」。アブラムには意識があった。

2. 神からの語りかけ

- (1) エジプトでの奴隷生活の預言
 - ① 400年間(1876～1476B.C.)とある。使7:6。
 - ② 430年間(1876～1446B.C.)ともある。出12:40～41、ガラ3:17。
 - ③ エジプト滞在期間は430年間、奴隷の期間は400年間と考える。
- (2) 神はエジプトを裁く(14節)
 - ① アブラハム契約の条項
 - ② 呪いには呪い。同じ種類の呪いが返る。
- (3) アブラム個人には、平安の約束(15節)

「あなた自身は平安のうちに、あなたの先祖のもとに行き、長寿を全うして葬られよう」

 - ① 「先祖のもとに行き」：アブラムの魂のことである。
 - ② 行き先は、シオールである(地球の中心にあるとされる)。
- (4) カナンの地への帰還の約束(16節)
 - ① 4代目の者たち：1代は必ずしも40年ではない。
 - ② 20年、60年、80年のこともある。ここでは、100年。
 - ③ 4代目(出6:16～21)：レビ、ケハテ、アムラム、モーセとアロン。

(5) それほど長く待つ理由

「それはエモリ人の咎が、そのときまでに満ちることはないからである」

- ① レビ 18 : 24 ~ 30、20 : 22 ~ 27、申 18 : 9 ~ 14
- ② エモリ人たちには、言い訳はできない。神の恵みは十分に与えられた。
- ③ ヨシュアによるカナンの地の征服は、神の裁きとしての側面を持つ。

III. 契約の締結

1. タイミング

- (1) 15 : 12 では、薄暮である。
- (2) 15 : 17 では、暗闇である。

2. 当事者

- (1) シャカイナグローリーが現れた。
 - ① 通常は、光、火、雲、あるいはその混合。
 - ② ここでは、2つのものが現れた。
 - * 煙の立ちかまど、燃えているたいまつ
 - * たいまつ火によって、かまどから煙が立っている。
 - ③ 切り裂かれた死体の間を、シャカイナグローリーが通過した。
- (2) アブラムは眠っていた。
 - ① この契約は、片務契約であり、無条件契約である。
 - ② アブラムとその子孫が失敗しても、この契約は継続する。

3. 結果

- (1) 契約は、その日に締結された。
- (2) 血の契約に追加条項を加えることはできるが、基本条項を変更することはできない。

IV. 土地に関する預言

1. 約束の地の境が明確にされる。

- (1) アブラムと、その子孫に与えられる。
- (2) 南の境：エジプトの川
 - ① ナイル川ではない。
 - ② シナイ半島の中央を流れるワジ・エル・アリシュでもない。
 - * ナハル (nahar、川) と、ナカル (nachal、ワジ) とは区別される。

③ ナイル川はデルタ地帯で分岐し、いくつかの支流となる。東端の川が「エジプトの川」。

(3) 北の境：ユーフラテス川

2. 土地を奪われる民

(1) 10の部族。これが全リストである。

(2) 時には、6部族(出3:8、3:17、23:23、申20:17)

(3) 時には、7部族(申7:1、ヨシ3:10)

結論

1. アブラハム契約は、今も有効である。

(1) 片務契約。無条件契約。

(2) イスラエルの失敗によって無効となるものではない。

2. イスラエルに与えられた契約は、今も有効である。

(1) いわゆるパレスチナ問題は、解決済み。そこはイスラエルに与えられた土地である。

(2) それを認めないところに、問題の根がある。

(例話) ディック・ローの失敗。

3. 異邦人の救いは、アブラハム契約の一部である。

(1) アブラハム契約の「祝福」の部分に私たちは参加している。

(2) イエス・キリストにある救いは、無条件契約である。

① 何をしてもいいという意味ではない。

② 罪を犯せば、神からの裁きと、訓練が下る。

③ しかし、悔い改めの道が残されている。

【創世記27】創世記16章1節～16節

「イシュマエルの誕生」

イントロ：

1. 前回までの復習

- (1) 神はアブラムを選び、彼とその子孫を通して全人類を救おうとされた。
- (2) 神は、カナンの地に移り住んだアブラムと契約を締結された。
 - ① アブラハム契約
 - ② 無条件契約
- (3) アブラムには、星の数ほどの子孫が与えられる。

2. きょうの箇所

- (1) 神の計画とは異なった形で、最初の子が誕生する。
- (2) その影響は、今日にまで及んでいる。

3. メッセージのアウトライン

- (1) サライとハガル (人の失敗)
- (2) ハガルと主の使い (神の恵み)
- (3) イシュマエルの誕生 (失敗の結果)

4. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) アブラハムの子孫とは誰か。
 - ① ユダヤ性はアブラハムによって規定されるものではない。
 - ② ユダヤ人とは、ヤコブの子孫のことである。
- (2) 現在のイスラエル人とアラブ人の紛争の源流がここにある。
- (3) 厳しい時代にあって、アブラハムの失敗から霊的教訓を学ぶ。

このメッセージは、アブラハムの失敗から霊的教訓を学ぼうとするものである。

I. サライとハガル (人の失敗)

1. イシュマエル誕生の状況説明 (1節)

- (1) サライは、子を産まなかった。
 - ① 神はアブラムに息子を約束したが、この段階ではまだそれが成就していない。
 - ② また、サライが子を産むということまでは啓示されていない。

(2) サライには、エジプト人の女奴隷がいて、その名をハガルと言った。

- ① エジプト人の女奴隷を得る可能性があったのは、エジプトに下った時だけ(創12:6)。
- ② ラビ的伝承では、ハガルはパロの娘とされている。
- ③ ハガルはヘブル語で、「逃亡者となる」、「逃げる」などの意味。
- ④ 恐らく、アブラムかサライが、エジプトでの体験にちなんで付けたのであろう。

2. サライの提案(2節)

(1) 創11:30で、「サライは不妊の女で、子どもがなかった」とあった。

(2) 不妊を理由に、アブラムに提案をする。

「どうぞ、私の女奴隷のところにお入りください」

(3) この提案は、ハムラビ法典、ヌジ文書の規定通りである(ともに2000年B.C.)。

「もし妻が不妊であれば、夫の家系を絶やさないために、女奴隷を与えて、夫が彼女によって子を得るようにする義務がある」

(4) サライの提案は、当時の法に適っているが、これは彼女の信仰の欠如を示している。

- ① アブラムに子が与えられるのであれば、サライを通してであることが暗黙の了解。
- ② アブラムには、サライしか妻はいないのである。
- ③ とは言え、当時の法に従えば、女奴隷を与えることは妻の権利である。

(5) 提案の理由

「たぶん彼女によって、私は子どもの母になれるでしょう」

- ① ヘブル語の直訳は、「彼女によって、建てられる、確立される、栄える」など。
- ② 女奴隷から生まれた子は、正妻の子となるのが当時の習慣。

(6) アブラムの承認

「アブラムはサライの言うことを聞き入れた」

- ① これもまた、アブラムの信仰の欠如である。エジプトに下ったのと同じ。
- ② 彼は、神の声ではなく、サライの声を聞いた。
- ③ 創3:17と似ている。

「あなたが、妻の声に聞き従い、食べてはならないとわたしが命じておいた木から食べたので、土地は、あなたのゆえにのろわれてしまった。あなたは、一生、苦しんで食を得なければならない」

- ④ アダムもアブラムも、ともに否定的な結果をもたらした。

(7) かくして、ハガルはアブラムのめかけとなった。

- ① 以上のことは、不道德なことではなく、すべて合法的であった。
- ② しかし、不信仰の行為であった。

3. サライとハガルの対立(3～5節)

(1) カナンの地に来て10年が経っていた。

- ① 信仰不足の原因
- ② アブラムは85歳、サライは75歳。

(2) アブラムは、ハガルを妻に迎えた。

- ① 彼女は、肉欲のためのそばめ(めかけ)ではない。
- ② これは、子を残すための合法的な結婚である。
- ③ 創世記では、妻であることとそばめであることとは、両立する。

(3) ハガルはみごもった。

(4) 聖書時代、不妊の女は見下された(神の評価ではなく、人の評価)。

(5) ハガルの態度が変化した。

- ① 「見下げるようになった」(口語訳、新改訳)、「軽んじた」(新共同訳)。
- ② ヘブル語では、「カルル」。

* 創世記12:3

「あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。
地上のすべての民族は、あなたによって祝福される」

* 「あなたをのろう者」、「カルル」

* 「わたしはのろう」、「アラール」

* ハガルは、サライをのろい、軽んじた。

(6) サライの不平

- ① サライは、アブラムにその責任を押し付けた。
- ② 訳語比較

「わたしが受けた害はあなたの責任です」(口語訳)

「私に対するこの横柄さは、あなたのせいです」(新改訳)

「わたしが不当な目に遭ったのは、あなたのせいです」(新共同訳)

4. ハガルの逃避(6節)

(1) アブラムの応答

「あなたの女奴隷は、あなたの手の中にある。彼女をあなたの好きなようにしなさい」

(2) 当時の法律では、ハガルは依然としてサライの所有物、女奴隷。

- ① もし彼女を、アブラムの妻の地位から、女奴隷に戻したければ、それができた。
- ② 妊娠したので、彼女を他人に売ることはできないが、女奴隷に戻すことはできる。

(3) そして、アブラムとハガルの間の肉体関係も、これで途絶える。

(4) ハガルの逃避

① 訳語比較

「そしてサライが彼女を苦しめたので、彼女はサライの顔を避けて逃げた」(口語訳)

「それで、サライが彼女をいじめたので、彼女はサライのもとから逃げ去った」(新改訳)

「サライは彼女につらく当たったので、彼女はサライのもとから逃げた」(新共同訳)

② 「アナー」という動詞。出1：11～12に出て来る。

「そこで、彼らを苦役で苦しめるために、彼らの上に労務の係長を置き、パロのために倉庫の町ピトムとラメセスを建てた。しかし苦しめれば苦しめるほど、この民はますますふえ広がったので、人々はイスラエル人を恐れた」

③ ユダヤ人の婦人が、エジプト人を苦しめている。これは、皮肉な出来事である。

II. ハガルと主の使い(神の恵み)

1. 主の使いの登場(7節)

- (1) 「主の使い(天使)」として、48回登場する。
- (2) 「神の使い(天使)」として、11回登場する。
- (3) 常に、三位一体の第2位格。つまり、受肉前のメシアである。

2. 場所

- (1) 「泉(エイン)」という言葉が、初めて登場。
- (2) 「荒野」とは、ネゲブの荒野である。
- (3) 「シュルへの道」とは、エジプトとカナンの地を結ぶ幹線道路。
- (4) 彼女は、ネゲブとシナイ半島の境にいた。
- (5) つまり、エジプトに戻ろうとしていた。

3. 主の使いの2つの質問(8節)

- (1) 「あなたはどこから来て、どこへ行くのか」
- (2) ハガルは、最初の質問にだけ答えている。
「私の女主人サライのところから逃げているところです」
- (3) エジプトに向かっているが、実際は、行き先が見えずにさ迷っていたのであろう。

4. 主の使いの命令(9節)

- (1) アブラムの家に帰れ。
- (2) サライを見下してはいけない。つまり、いじめられても、謙遜に仕えよということ。

5. 主の使いの預言 (10～12節)

- (1) 「あなたの子孫は、わたしが大いにふやすので、数えきれないほどになる」
- ① 「主の使い」は、神ご自身のように語っている。
 - ② アブラムの子孫が数えられないほどの数になるように、アラブ民族もそうなる。
 - ③ 族長たちは同様の約束を受けたが、女性でこの約束を受けたのは、ハガルだけである。
- (2) 「見よ。あなたはみごもっている。男の子を産もうとしている。その子をイシュマエルと名づけなさい」
- ① 子どもの性別が預言される。
 - ② 神がその子の名を選ばれた。
 - ③ イシュマエル (神は聞かれる)
 - ④ 誕生前に神によって名が与えられた最初の子である。
 - * イサク 創 17 : 19
 - * イエス マタ 1 : 21、ルカ 1 : 31
 - * バプテスマのヨハネ ルカ 1 : 13
 - ⑤ イシュマエルという名の理由は、「主があなたの苦しみを聞き入れられたから」。
- (3) 「彼は野生のろばのような人となり、その手は、すべての人に逆らい、すべての人の手も、彼に逆らう。彼はすべての兄弟に敵対して住もう」
- ① 「野生のろばのような人になる」 「wild ass」
 - ② これは、罵倒する言葉ではない。イシュマエルは、荒野を渡り歩く遊牧民となる。
 - ③ 「その手は、すべての人に逆らい」
 - * 荒野の移動の中で、他民族と遭遇する。彼は、攻撃的な性格を示す。
 - ④ 「すべての人の手も、彼に逆らう」
 - * 攻撃された方が、報復攻撃を仕かけてくる。
 - * 1948年以降の、アラブ人のイスラエルへの攻撃と、イスラエルの側の報復。
 - ⑤ 「彼はすべての兄弟に敵対して住もう」
 - * 弟のイサクと隣り合って住むが、平和的にではなく、敵対心を持って住む。

6. ハガルの応答 (13節)

「そこで、彼女は自分に語りかけられた主の名を『あなたはエル・ロイ』と呼んだ」

- (1) 彼女は、主の天使が神ご自身であることを認識した。
- (2) 「エル・ロイ」とは、「ご覧になる神」という意味。
- (3) 「それは、『ご覧になる方のうしろを私が見て、なおもここにいるとは』と彼女が言ったからである」
- (4) モーセが同じ体験をしている。出 33 : 22～23

「わたしの栄光が通り過ぎるときには、わたしはあなたを岩の裂け目に入れ、わたしが通り過ぎるまで、この手であなたをおおっておこう。わたしが手をのけたら、あなたはわたしのうしろを見るであろうが、わたしの顔は決して見られない」

III. イシュマエルの誕生 (失敗の結果)

1. ハガルは、男の子を出産した。

「ハガルは、アブラムに男の子を産んだ。アブラムは、ハガルが産んだその男の子をイシュマエルと名づけた」

(1) ハガルは実母であるが、法的な母はサライである。

(2) 命名しているのは、アブラムである。

① ハガルが、自らの体験を告げ、イシュマエルという名にすべきと進言していた。

② アブラムは、それを信じた。

2. アブラムの年齢は、86歳。

「ハガルがアブラムにイシュマエルを産んだとき、アブラムは八十六歳であった」

3. イシュマエルは、約束の子ではない。

(1) アブラムは、さらに14年待たねばならない。

(2) 約束の子は、神の恵みによって与えられる。

結論

1. 人の失敗

(1) 合法的なことが必ずしも神の御心ではない。

(2) 不信仰の原因は、時間を見、自分の肉体的な状態を見たことにある。

(3) 神のことばへの信頼こそ、真の信仰である。

2. 神の恵み

(1) アブラムはハガルを見捨て、サライは彼女をいじめた。

(2) しかし、神は見ておられた。

(3) ハガルは、主の使いが神ご自身であることを認識した。

(4) その方の名を「エル・ロイ」と呼んだ。「ご覧になる神」という意味。

(5) ハガルの窮状に目を留められた神は、私たちの歩みの上にも目を注いでおられる。

3. 失敗の結果

- (1) アブラムを試されたように、神は私たちをも試される。
- (2) 「神の約束」は、人間の手によってではなく、神ご自身の時と方法によって成就する。
- (3) 新約聖書では、ガラ4：21～31に、この秘訣が描かれている。
 - ① パウロは、信仰義認の真理を教えるために、イシュマエルとイサクの関係を例に引く。
 - ② イシュマエルは「女奴隷の子」、イサクは、「自由の女の子」として描かれている。「兄弟たちよ。あなたがたはイサクのように約束の子どもです。しかし、かつて肉によって生まれた者が、御霊によって生まれた者を迫害したように、今もそのとおりです。しかし、聖書は何と言っていますか。『奴隷の女とその子どもを追い出せ。奴隷の女の子どもは決して自由の女の子どもとともに相続人になってはならない』。こういうわけで、兄弟たちよ。私たちは奴隷の女の子どもではなく、自由の女の子どもです」(ガラ4：28～31)
- (4) 私たちは、御霊によって生まれ、御霊に導かれて生活をする「自由の女の子ども」。
- (5) 律法主義的な生活ではなく、御霊に導かれた生活を志そうではないか。

【創世記28】創世記17章1節～27節

「割礼」

イントロ：

1. 前回までの復習

- (1) 神はアブラムを選び、彼とその子孫を通して全人類を救おうとされた。
- (2) それがアブラハム契約である。
- (3) アブラムには、星の数ほどの子孫が与えられる。
- (4) アブラムとサライは、人間的な計画で約束の子を得ようとした。
 - ① エジプト人の女奴隷ハガル
 - ② 誕生したのは、イシュマエル

2. きょうの箇所

- (1) アブラムからアブラハムへの改名
- (2) 割礼の命令
- (3) サライからサラへの改名
- (4) サライが男の子を生むという約束
- (5) イシュマエルの祝福
- (6) 割礼の実行

3. メッセージのアウトライン

上の6つのポイントそのまま。

4. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) 本来の割礼の意味を学ぶ。
- (2) 新約時代のクリスチャンにとっての割礼の意味を学ぶ。
- (3) 副産物
 - ① その過程で、聖書の読み方について学ぶ。
 - ② ユダヤ人とアラブ人の葛藤の原因について学ぶ。
 - * イスラエルがガザ地区を攻撃している。
 - * なぜハマスは、イスラエル殲滅を目指すのか。

このメッセージは、割礼の意味について現代的視点から学ぼうとするものである。

I. アブラムからアブラハムへの改名

1. タイミング：アブラムは99歳になっていた（1節）。

- (1) 創12章で最初の約束を受けてから、24年が経過した。
- (2) 15章（契約締結）から23年が経過した。
- (3) 創16章でイシュマエルが誕生してから、13年が経過した。
- (4) この段階では、アブラムはイシュマエルが「約束の子」であると思っている。

2. 神の自己啓示があった。

- (1) 「わたしは全能の神である」（エル・シャダイ）
- (2) 旧約聖書に48回出てくる。その最初。
- (3) 創世記には6回出てくる。
 - ① 17：1、28：3、35：11、43：14、49：25。
 - ② すべて子孫の約束という文脈。
 - ③ 例外は43：14だけ。

3. 改名

- (1) 「あなたは多くの国民の父となる」
 - ① これまでは、ひとつの国民の父となるという約束であった。
 - ② ここで、「多くの国民の父」との約束が与えられる。
 - ③ イスラエル、ユダ、アラブ諸国が彼から出る。
- (2) 新しい約束を強調するために、新しい名前が与えられる。
 - ① 「あなたの名は、もう、アブラムと呼んではならない」
（アブラムとは、高く上げられた父）
 - ② 「あなたの名はアブラハムとなる」
（アブラハムは、多くの者の父）
 - ③ 「わたしが、あなたを多くの国民の父とするからである」
（国民は、ゴイム。異邦人国家も彼から出てくる）

4. 契約の継承者

- (1) 「わたしは、わたしの契約を、わたしとあなたとの間に、そしてあなたの後のあなたの子孫との間に、代々にわたる永遠の契約として立てる」
 - ① アブラハム契約は、ひとつの国民と結ばれる。
 - ② 永遠（オラム）とは、ある時代の終わりまで。
 - ③ この文脈では、人類の歴史の終わりまで

5. 土地の約束

- (1) 「わたしは、あなたが滞在している地、すなわちカナンの全土を、あなたとあなたの後のあなたの子孫に永遠の所有として与える。わたしは、彼らの神となる」
- (2) 土地の約束が、アブラハムとその子孫に与えられた。
- (3) この約束は、千年王国で成就する。
- (4) ユダヤ人がそこに住んでいるかどうかは、問題ではない。そこはユダヤ人の所有地。

II. 割礼の命令

1. 契約としるしについて

- (1) すべての契約に「しるし」があるわけではない。
 - ① エデン契約、アダム契約には、「しるし」がない。
 - ② ノア契約には、「しるし」があった。虹がそれである。
- (2) アブラハム契約にも、「しるし」が与えられる。割礼がそれである。

2. 神の約束への応答として、アブラハムの為すべきことが示される。

- (1) アブラハム契約は、無条件契約である。
 - ① その契約を受けた者には、愛の応答が期待されている。
 - ② その応答がなくても、契約が破棄されることはない。
- (2) 私たちの救いの場合も、同じである。
 - ① 救いは、信仰により、恵みによる。
 - ② 救われた者には、愛の応答が期待されている。
- (3) 人類の歴史が続く限り、アブラハム契約が有効である限り、これを行う。

3. 具体的内容

- (1) 男性だけで、女性は除かれる。
- (2) この「しるし」は、男性の生殖器に焦点が合わさったものである。
 - ① 約束の子が誕生するための器官。
- (3) 割礼は、アブラハムとともに始まったのではない。
 - ① エジプト人(エレ9:25~26)
 - ② アブラハム以降は、アラブ人、エドム人、モアブ人、アモン人(エレ9:25~26)。
- (4) この割礼がユニークな理由は、それがアブラハム契約の「しるし」であるから。
- (5) さらに、割礼では血が流れる。
 - ① これが血の契約であることが強調される。

② 割礼を見るたびに、自分がアブラハム契約の中に置かれていることを思い出す。

(6) さらに、割礼を行うタイミングもユニークである。

① 生まれて8日目。

② 新生児の免疫力が最も高まる時。

4. ヒレル派とシャマイ派の論争

(1) 8日目が安息日の場合は、どうするか。

① ヒレル派：延期する。

② シャマイ派：割礼は安息日の規定に勝る。安息日でも実行する。

③ 後者が、ラビ的規則となる。

(2) 異邦人がユダヤ教に回心する前に割礼を受けていた場合は、どうするか。

① ヒレル：再割礼の必要なし。

② シャマイ：血を流すために傷つける必要あり。

③ 後者が、ラビ的規則となる。

5. 範囲

(1) 家で生まれたしもべも、外国人から金で買い取られたあなたの子孫ではない者も。

(2) アブラハム契約が有効である限り、割礼を実行せねばならない。

(3) ユダヤ人は今も割礼を受ける。

(4) メシアニック・ジューであっても割礼を受ける。

(5) 異邦人は、割礼を受ける必要はない。

(6) 健康上の理由で受けることは、ここでの議論とは無関係である。

(7) 契約違反(14節)

「包皮の肉を切り捨てられていない無割礼の男、そのような者は、その民から断ち切られなければならない。わたしの契約を破ったのである」

① ことば遊びがある。「包皮の肉を断ち切らない男は、断ち切られる」

② これは、天寿を全うしないで死ぬこと。

* 出4：24～26のモーセの例

6. ミシュナの解説

「割礼を受けたユダヤ人は、地獄に行かない。アブラハムが見張っている。悔い改めなしに死ぬと、特別な天使たちがやって来て、包皮の肉を元に戻す。そうになると、その人は無割礼の者となって、地獄に行く」

III. サライからサラへの改名

1. サライ(私の王女)からサラ(王女)へ
 - (1) 聖書の女性の中で、名前が変更した唯一の女性
2. 彼女にも新しい約束が与えられる。

IV. サライが男の子を産むという約束

1. 祝福のことば(16節)

「わたしは彼女を祝福しよう。確かに、彼女によって、あなたにひとりの男の子を与えよう。わたしは彼女を祝福する。彼女は国々の母となり、国々の民の王たちが、彼女から出て来る」

 - (1) ここで、サラが約束の子の母であることが示される。
 - (2) 彼女は、ユダ、イスラエル、エドムの母となる。
2. アブラハムの感情的な応答(17節)

「アブラハムはひれ伏し、そして笑ったが、心の中で言った。『100歳の者に子どもが生まれようか。サラにしても、90歳の女が子を産むことができようか』」

 - (1) 不信仰の応答
 - (2) 「笑った」は、ヘブル語で「イツツハク」という動詞。
 - (3) これが息子の名になる。
 - (4) 「サラ」という名前を使っているのは、従順。
 - (5) 「100歳」「90歳」は、これが成就するなら来年以降のことだと考えた証拠。

V. イシュマエルの祝福

1. イシュマエルの幸せを願うアブラハム(18節)

「そして、アブラハムは神に申し上げた。『どうかイシュマエルが、あなたの御前で生きながらえますように』」

 - (1) イシュマエルとは13年間もともに住んだ。
 - (2) イシュマエルが約束の子だと思ってきた。
2. 神の計画

「いや、あなたの妻サラが、あなたに男の子を産むのだ」

 - (1) イシュマエルの否定
 - (2) サラが約束の子を産む

(3) 「あなたはその子をイサクと名づけなさい」

- ① 神が名前を与える。
- ② イッツハク (笑い、彼は笑った)
- ③ 神が、アブラハムの感情的な応答に回答を与えた。

(4) 「わたしは彼とわたしの契約を立て、それを彼の後の子孫のために永遠の契約とする」

- ① アブラハム契約は、イシュマエルではなく、イサクとその子孫に継承される。
- ② イシュマエルの子孫であるアラブ人たちは、これを承認していない。

(5) イシュマエルへの約束 (20 節)

「イシュマエルについては、あなたの言うことを聞き入れた。確かに、わたしは彼を祝福し、彼の子孫をふやし、非常に多く増し加えよう。彼は十二人の族長たちを生む。わたしは彼を大いなる国民としよう」

- ① 創 25：12～18 で成就
- ② 今日のアラブ人国家を見よ。

(6) イサク誕生のタイミング (21 節)

「しかしわたしは、来年の今ごろサラがあなたに産むイサクと、わたしの契約を立てる」

- ① 割礼の傷が癒され、サラが妊娠して子を産むのに十分な時間がある。
- ② 割礼とサラの妊娠の間に3ヶ月。
- ③ その間、ソドムとゴモラの滅び (創 18～19 章) がある。
- ④ アビメレク事件 (創 20) がある。

VI. 割礼の実行

1. その日のうちに実行した。
2. アブラハムの家のすべての男子が、割礼を受けた。
3. 神が命じられた通りに、包皮の肉が切り捨てられた。
4. この日以来、ユダヤ人にとっては、割礼は神との契約を確認するしるしとなった。

結論

1. アブラハム契約の「しるし」

- (1) ユダヤ人にとっては、今も割礼はアブラハム契約の「しるし」として有効。
- (2) この点では、メシアニック・ジュー（イエスを信じるユダヤ人）も例外ではない。
- (3) 救われるためではなく、アブラハム契約の「しるし」を身に帯びるため。
- (4) モーセの律法の要求に従うためではない。

2. 肉の割礼には、霊的な意味はない。

- (1) 割礼は救いの条件でも、霊的であることの保証でもない。
 - ① I コリ 7：19、ガラ 5：6
- (2) アブラハムは、割礼を受けたから義とされたのではない。
 - ① 彼は信仰によって義とされた（創 15：6）。
 - ② 義とされたことのしるしとして、割礼を受けた（ロマ 4：9～12）。

3. 異邦人クリスチャンは、割礼を受ける必要がない。

- (1) 使徒 15 章のエルサレム会議で確認された。
- (2) パウロは、テトスの割礼には反対したが、テモテには割礼を受けさせた。
 - ① テトスは異邦人
 - ③ テモテはユダヤ人の母の子。
- (3) 私たちにとって大切なのは、肉の割礼ではなく心の割礼である。

4. 割礼を誇りとする者は、霊的に盲目になった。

- (1) イエスがメシアであることが見えなかった。
- (2) 人間的な誇りがあると、霊的な真理が見えなくなる。
- (3) 使徒パウロの言葉
「しかし私には、私たちの主イエス・キリストの十字架以外に誇りとするものが決してあってはなりません」（ガラ 6：4）

【創世記29】創世記18章1節～33節

「アブラハムの執りなしの祈り」

イントロ：

1. 前回までの復習

- (1) 神はアブラムを選び、彼とその子孫を通して全人類を救おうとされた。
- (2) それがアブラハム契約である。
- (3) アブラムはアブラハムに、サライはサラに改名した。
- (4) その理由は、新しい約束が与えられたから。
 - ① アブラハムは諸国民の父となる。
 - ② サラは男の子を産む。
- (5) アブラハムは、アブラハム契約の「しるし」として割礼を実行した。

2. きょうの箇所

- (1) 割礼を受けた直後の出来事
- (2) ソドムとゴモラに下る裁きがアブラハムに伝えられる。
- (3) アブラハムは、執りなしの祈りを捧げる。

3. メッセージのアウトライン

- (1) 第1幕 マムレの櫨の木の下で(サラが男の子を産むという約束)
- (2) 第2幕 訪問客を見送る途上で(ソドムとゴモラが滅びるという予告)
- (3) 第3幕 ヘブロン高原で(アブラハムの執りなしの祈り)

4. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) 執りなしの祈りの本質
- (2) 祈りに対する神からの答え
- (3) メシアの祈り

このメッセージは、執りなしの祈りの意味について学ぼうとするものである。

I. 第1幕 マムレの櫨の木の下で

1. アブラハムは、天幕の入口に座っていた。
 - (1) 彼が依然として遊牧民であったことを表している。
 - (2) ユダヤ教の伝承では、割礼を受けて3日目。座って傷が癒えるのを待っていた。

- (3) つまり、17章と18章は時間的につながっているということ。
- (4) 日の暑い頃：正午過ぎ。中東では主たる食事の時間。

2. 3人の人が彼に向かって立っていた。

- (1) アブラハムは、即座に行動した。
- (2) 地にひれ伏している。
- (3) 「ご主人」
 - ① ヘブル語では「アドナイ」。
 - ② 日本語訳の比較
 - * 「ご主人」(新改訳)
 - * 「わが主よ」(口語訳)
 - * 「お客様」(新共同訳)
 - ③ 「アドナイ」とは、神を指す語である。
 - ④ この3人は、神が2人の天使を伴って現れたもの。
- (4) 「お気に召すなら、どうか、あなたのしもべのところを素通りなさないでください」
 - ① 日本語訳の比較
 - * 「お気に召すなら」(新改訳)
 - * 「もしわたしがあなたの前に恵みを得ているなら」(口語訳)
 - * 「よろしければ」(新改訳)

3. アブラハムのもてなし

- (1) 「少しばかりの水を持って来させますから、あなたがたの足を洗い、この木の下でお休みください。私は少し食べ物を持ってまいります」
- (2) 実際は、必要以上のもてなしをしている。
 - ① サラに命じて、パン菓子を作らせている。
 - * 「三セアの上等の小麦粉」。20リットル以上の量。
 - ② 最上の子牛を取ってそれを僕に料理させている。
 - ③ 木の下に立って彼らに給仕をしている。
- (3) これらのもてなしは、ソドムの人々(19章)のそれとは対照的である。

4. この食事の本質

- (1) 17章で、アブラハムとその家族は、契約のしるしとしての割礼を身に受けた。
- (2) その傷の癒しが進行している過程で、この3人と食事をするようになった。
- (3) これは、ヘブル的概念で言うと、「契約の食事」、「親しい交わりの食事」である。
- (4) 契約の食事という概念は、主イエスの最後の晩餐につながる。

- (5) また、黙3:20もその延長線上にある。
- (6) 私たちもまた、アブラハムのように神をもてなすことができる。
 - ① 心の戸を開いて、主イエスを心の内にお招きすることがその方法。
 - ② 主に対して閉め切っている小部屋があるなら、今それを開こう。

5. サラへの約束

- (1) 「あなたの妻サラはどこにいますか」
 - ① 彼らは、サラという新しい名前を知っている。
 - ② この質問は、サラの注意を引くためになされたもの。
 - ③ この質問をしているのは3人であるが、約束のことばを語るのは1人。
- (2) 「わたしは来年の今ごろ、必ずあなたのところに戻って来ます。そのとき、あなたの妻サラには、男の子ができています」(10節)
 - ① この人は、13～14節になると、「主(ヤハウェ)」と呼ばれている。
 - ② アブラハムとサラに語りかけていたのは、神ご自身である。
 - ③ 「来年の今ごろ、戻って来ます」とは、約束が成就するという意味。
 - ④ 約束の内容は、「サラは男の子を産む」というもの。
 - ⑤ 17:21でアブラハムに語られた約束と同じもの。
- (3) サラにはまだその信仰がない。
 - ① 約束のことばを聞いた時のサラの反応は、「不信仰の苦笑」。
 - ② 自分は老人になっているので、出産は不可能だという理性的な判断を下した。

6. 神に不可能はない

- (1) 「サラはなぜ『私はほんとうに子を産めるだろうか。こんなに年をとっているのに』と言って笑うのか」
- (2) サラの心を見抜く神。神が全知全能であることを示している。
- (3) 「主に不可能なことがあろうか」
 - ① 「不可能」と訳された語は、ヘブル語では「ペレ」
 - ② これは神に関してのみ使われる語で、その意味は英語の「ワンダフル」と同じ。
 - ③ 士13:18、詩139:6、イザ9:6、28:29 参照
 - ④ ルカ1:37、マタ19:26 参照
- (4) サラは、恐ろしくなり、「私は笑いませんでした」と言って打ち消した。
 - ① サラの恐れは、主が彼女の心の中を見通しておられることから来るもの。
 - ② ここで彼女は、人間を超越した全知全能の神に触れた。
- (5) 否定的な思いや敗北主義が、神の働きを妨げていることはないか。

II. 第2幕 訪問客を見送る途上で

1. 食事の後

- (1) 3人は、ソドムを見おろすほうへ上って行った。
- (2) アブラハムは、当時の習慣に従って途中まで客人たちを見送った。
- (3) 「わたしがしようとしていることを、アブラハムに隠しておくべきだろうか」
 - ① 答えはもちろん、「否」である。
 - ② 神は、ソドムとゴモラの裁きを、アブラハムに対して啓示された。

2. 啓示の理由 (18～19節)

- (1) アブラハム契約が将来成就することが前提になっている。
「アブラハムは必ず大いなる強い国民となり、地のすべての国々は、彼によって祝福される」
 - ① 彼から出る国は強くなり、地上の諸国民は彼によって祝福されることが約束された。
 - ② しかし今、その諸国民の中から、1つの国が除外されようとしている。
* 4つの町々(ソドム、ゴモラ、アデマ、ツェボイム)
* ツォアルだけは裁きを免れた。
- (2) アブラハムの霊的資質が前提になっている。
 - ① 鍵になる聖句は、19節。
 - ② 口語訳
「わたしは彼が後の子らと家族とに命じて主の道を守らせ、正義と公道とを行わせるために彼を知ったのである。これは主がかつてアブラハムについて言った事を彼の上に臨ませるためである」
 - ③ この訳のよい点は、「彼を知ったのである」と訳されていること。
 - ④ 「知る」とは、「経験的に知る」、「親密に知る」という意味(創3:5、4:1参照)。
 - ⑤ 神はアブラハムの霊的状态を、経験的に知っておられた。
 - ⑥ それゆえ彼は、「神の友」と呼ばれた(イザ41:8、ヨハ15:15、ヤコ2:23)。
 - ⑦ 「神の友」と呼ばれる人は幸い。

3. 啓示の内容 (20～21節)

- (1) 「ソドムとゴモラの叫びは非常に大きく、また彼らの罪はきわめて重い」
 - ① ソドムとゴモラの罪を糾弾する声大きいという意味。
- (2) 「わたしは下って行って、わたしに届いた叫びどおりに、彼らが実際に行っているかどうかを見よう。わたしは知りたいのだ」
 - ① 神がソドムとゴモラの罪について無知であったという意味ではない。

- ② 神は細部まで観察し、罪の内容を十分知った上で、裁きを下される。
- ③ 「思い違いをしてはいけません。神は侮られるような方ではありません。人は種を蒔けば、その刈り取りもすることになります」(ガラ6:7)

III. 第3幕 ヘブロン高原で

1. 主とアブラハムだけが後に残される。
 2. アブラハムは、ソドムに住んでいるロトのことを心配し、執りなしの祈りを始める。
 - (1) 彼は、主に近づいている。礼拝の姿勢。
 - (2) 彼は、大胆に神に願っている。

「全世界をさばくお方は、公義を行うべきではありませんか」(25節)
 - (3) 彼は、謙遜に願っている。

「私はちりや灰にすぎませんが、あえて主に申し上げることをお許してください」(27節)
 - (4) 彼は、執拗に願っている。
 - ① 最初50人の義人から始めた。
 - ② それが、45人、40人、30人、20人、10人まで下がった。
 - (5) 彼は、具体的に願っている。
 3. なぜ彼は、10人で止めたのか。
 - (1) それで十分だと判断した。
 - (2) ロトの家族は10人になっていた。
 - ① ロト
 - ② 妻
 - ③ 2人の息子(19:12)
 - ④ 嫁いだ2人の娘(19:14)
 - ⑤ 2人の義理の息子(19:14)
 - ⑥ 2人の未婚の娘(19:8)
 - (3) 問題は、この10人がすべて義人ではなかったこと。
 - ① かろうじてロトだけが、義人と呼ばれている(IIペテ2:7)。
 4. 語り終わると、主とアブラハムは、別々の道に行った。

結論

1. 執りなしの祈りの本質

- (1) 神が祈り手を選び、祈りのテーマを教える。
 - ① 私たちは、神にどのように知られているか。
 - ② 神から祈りのテーマを与えられているか。
- (2) 5つのキーワードを意識して祈る。
 - ① 礼拝の姿勢
 - ② 大胆
 - ③ 謙遜
 - ④ 執拗
 - ⑤ 具体的

2. 祈りに対する神からの答え

- (1) ソドムとゴモラは滅ぼされた。
- (2) アブラハムの願い通りにはならなかった。
- (3) しかし、アブラハムの祈りの精神は聞き届けられた(創19:29)。
- (4) これと同じことが、私たちの祈りについても言える。

3. メシアの祈り

- (1) アブラハムの祈りは、ソドムとゴモラの住民すべてのためのもの。
- (2) アブラハムの人格の高潔さ。この高潔さには、自己犠牲の愛が含まれている。
- (3) 「地上のすべての民族を祝福する役割」(創12:3)を与えられたアブラハム。
- (4) この自己犠牲の愛は、出エジプト記のモーセに引き継がれた(出32:32参照)。
- (5) またその愛は、イザヤが預言する「受難のしもべ」の内において完成する。
- (6) このしもべこそ、主イエスである。
- (7) 私たちは、ルカ23:34の祈りによって救われた。

「父よ。彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです」
- (8) クリスチャンの執りなしの祈りは、祭司的使命の実践である。

【創世記30】創世記19章1節～38節

「ソドムとゴモラの滅び」

イントロ：

1. 前回までの復習

- (1) 神はアブラムを選び、彼とその子孫を通して全人類を救おうとされた。
- (2) それがアブラハム契約である。
- (3) アブラハムは、3人の客をもてなした。1人は神、2人は天使。
- (4) サラは来年息子を産むとの約束が与えられた。
- (5) アブラハムに、ソドムとゴモラの滅びが預言された。
- (6) アブラハムは、ロトとその家族のことを心配し、執りなしの祈りをした。

2. メッセージのアウトライン

- (1) 客の歓迎
- (2) 客の保護
- (3) 家族の説得
- (4) 町からの避難
- (5) 人生の総決算

3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) 神が最も憎まれる罪とは何か。
- (2) 絶望の中に見える希望の光とは何か。

このメッセージは、神が最も憎まれる罪について、また、絶望の中に見える希望の光について学ぼうとするものである。

I. 客の歓迎

1. 2人の御使いが夕暮れにソドムに着く。

- (1) 時は「夕暮れ」。
- (2) それゆえ、ロトは彼らを家に招く。

2. ロトはソドムの門のところに座っていた。

- (1) これがロトの生活の最終段階
 - ① 遊牧民として、町の外に住んでいた(13:12)。
 - ② 次に、ソドムの町に住むようになった(14:12)
 - ③ 最後に、ソドムの門のところに座るようになった。

- (2) 彼は町の長老の1人になった。社会的地位と権威を持つようになった。
 - ① 恐らく、アブラハムのお陰でロトはこうなったのであろう。
 - ② 人々は、アブラハムによって自分たちが救出されたことを知っていた(14章)。
 - ③ ロトは、アブラハムの甥である。
- (3) ロトは高い地位に着いたが、その影響力は無きに等しいものであった。
 - ① エジプトに住んだヨセフや、バビロン捕囚になったダニエルとは違う。
 - ② ヨセフとダニエルは、神から召された場でその使命を果たした。

3. ロトは、2人の客を家に招いた。

- (1) 彼らが天使であることを知らない。
- (2) 天使たちは、最初はその誘いを断っている。
 - ① その理由は、ロトを試すためであった。
 - ② ロトは、町の広場がいかに危険であるかを知っていた。
 - ③ 知っていながら、広場で夜を過ごすことを認めるのは、無責任な行為である。
- (3) ロトがしきりに勧めたので、天使たちはロトの家に入った。
 - ① これでロトは、テストに合格した。
 - ② 旅人を守ることは最高の徳とされていた。特に、遊牧民の間ではそうであった。
 - ③ 「パン種を入れないパン」を焼いた。聖書ではここで初めて出てくる。

II. 客の保護

- 1. 同性愛というソドムの罪が、明らかになる(ソドムがなぜ滅ぼされるかの例証)。
 - (1) 人々はロトの家を取り囲み、「彼らをよく知りたいのだ」と叫んだ。
 - (2) 「知る」とは親密な関係のこと。
 - ① つまり、ホモセクシャルの関係を結ぶことを願ったということ。
- 2. ロトは、2人の未婚の娘たちを代わりに提供しようとした。
 - (1) 客の安全を守るために、これほどの犠牲を払う覚悟をした。
 - (2) 彼は、レイプ(強姦)の罪よりも同性愛の罪の方が重いと考えた。
 - (3) 聖書は、同性愛の罪を厳しく糾弾している(レビ18:22、ロマ1:26~27)。
 - (4) ロトの妥協は、アブラハムの神が許容する範囲をはるかに超えていた。
 - (5) このジレンマは、アブラハムから離れ、ソドムに付いたことの結果である。
- 3. 人々は、説得されなかった。
 - (1) ロトは遊牧民であった。よそ者。
 - (2) 彼らは、ロトをも辱めようとした。
 - (3) ロトと2人の人を捕まえようとした。

4. ロトは、2人の人を助けようとしたが、最後はこの2人に助けられた。
- (1) ロトは家の中に連れ戻された。
 - (2) 戸口にいた者たちは、目つぶしをくらった。
 - (3) ダマスコ途上のパウロと同じ体験。

III. 家族の説得

1. 2人の天使の命令

- (1) ほかにあなたの身内の者がここにありますか。
- (2) あなたの身内の者をみな、この場所から連れ出さない。

2. ロトは家を出て、婿たちの家に向かう。

- (1) 人々は目つぶしをくらっていたために、ロトは安全に外に出ることができた。
- (2) 彼は婿たちを説得したが、婿たちには「それは冗談のように」思われた。
- (3) ロトの姿から、現代の父親像の喪失に似たものを感じる。

3. 夜が明けるころ

- (1) 御使いたちはロトを促し、家にいる者だけでも集めて逃れよと語る。
- (2) ここで、アブラハムの祈り(18:23)が叶えられている。
「あなたはほんとうに、正しい者を、悪い者といっしょに滅ぼし尽くされるのですか」
- (3) ロトはためらった。まだ家族全員が集まっていないから。
- (4) 天使たちは、彼とその妻、2人の娘たちの手をつかんで、町の外に連れ出した。
- (5) アブラハムの祈りのゆえである。アブラハム契約の祝福の側面が現れた。

IV. 町からの避難

1. 天使たちの命令

- (1) 急いで逃げよ。できるだけ早く、町から遠ざかれ。
- (2) うしろを振り返らず、前だけを見て進め。
- (3) ヨルダンの低地から逃げよ。低地全体が滅ぼされるから。
- (4) 山に逃げよ。
 - ① 「山」には定冠詞が付いているので、これはヨルダンの山のこと。
 - ② ロトの子孫はそこに住み着くことになる。

2. ロトの願い

- (1) 近くにある小さな町に逃げさせてくださいと懇願する。

(2) ロトのこの願いは、聞き届けられた。

① 「小さい」ということが強調されている。

② その町は、元はベラ(14:2、8)と呼ばれていた。

③ この時からツォアルという名になった。

④ ここには、ヘブル語の言葉遊びがある。

* ここで使われている「小さい」という語は、「ミツァール」。

* 町の名は「ツォアール」で、発音が似ている。

(3) 祈りの答え

① ソドムを救って欲しいというアブラハムの祈りは聞かれなかった。

② ツォアル(小さな町)を助けて欲しいというロトの祈りは聞かれた。

③ 信仰による祈りは聞かれるというのが、原則である。

④ と同時に、祈りの答えは、すべて神の権威によるということも真理である。

(4) ロトはその町に避難したが、結局は、その町を出て山に住むようになる(30節)。

3. ツォアル到着

(1) 「太陽が地上に上ったころ、ロトはツォアルに着いた」

(2) ロトにとっては、悪夢のような一夜が明けた。

(3) 彼は、家族を救おうとして労したが、結局助かったのは4人だけ。

4. ソドムとゴモラの滅び

「そのとき、主はソドムとゴモラの上に、硫黄の火を天の主のところから降らせ、これらの町々と低地全体と、その町々の住民と、その地の植物をみな滅ぼされた」

(1) 「主」(ヤハウェ)という語が、2度出てくる。

① 神の存在の複数性を示している。

② 神が三位一体であることを暗示している。

(2) 滅ぼされた町々は、ソドム、ゴモラ、アダマ、ツェボイム

① 14:2、14:8、申29:23

② 滅ぼされる前は、その辺り一帯はエデンの園のようであった。

(3) 専門用語について

① 「滅ぼす」とは「ハファク」

② 「洪水」は「マブール」

③ とともに、IIペテ2:4~9に出てくる。

* 「洪水」は「カタクルスモス(kataklysmos)」

* 英語の「cataclysm(大洪水、地殻の激変、社会的大変動)」

* 「滅び」(overthrow ひっくり返す、破壊する)は「カタストロフェイ」

* 英語の「catastrophe(破滅、破局、カタストロフィー)」

5. ロトは、もう1人家族を失う。

(1) ロトの妻は、ソドムの生活を懐かしがり、うしろを振り返り、塩の柱になった。

(2) 新約聖書の警告

「ロトの妻を思い出さない。自分のいのちを救おうと努める者はそれを失い、それを失う者はいのちを保ちます」(ルカ 17:32)

6. アブラハムの行動

(1) 前日執りなしの祈りをした場所に行った。心配だった。

① 町々が滅ぼされる様子を見て、10人の義人がいなかったことを知った。

② ロトがどうなったかは、この時点では分からない。

(2) 18章から続いてきた一連の物語の結論が、19:29に書かれている。

「こうして、神が低地の町々を滅ぼされたとき、神はアブラハムを覚えておられた。それで、ロトが住んでいた町々を滅ぼされたとき、神はロトをその破壊の中からのがれさせた」

① 罪に対する神のさばきの厳しさ。

② アブラハム契約のゆえに、アブラハムの祈りのゆえに、ロトが救われた。

③ 彼の祈りの精神は、聞かれた。

④ 「覚えておられた」とは、忘れていなかったという意味ではない。

⑤ この語は、記憶ではなく、行動を示している。

V. 人生の総決算

1. ソドムの罪はロトの罪として終結する。

(1) その結果、2つの民族が誕生する。

(2) 彼らはイスラエルの歴史の中の「とげ」となる。

2. その経緯

(1) ロトは山に逃げることを恐れてツォアルに住むことを願い、それが許される。

(2) しかし彼は、ツォアルに住むことを恐れ、ほら穴の中に住むようになる。

① ツォアルはソドムと同じ罪を犯していたので、滅ぼされる心配があった。

② ツォアルの人たちから殺されるかもしれないという恐れがあった。

③ その町はロトと娘たちが安心して住める場所ではなかった。

3. 2人の娘たちは、子孫を残すためにある策略を練った。

(1) 父によって子孫を残すという方法。

(2) 父の子孫を残すという崇高な目的のために、罪を犯した。

- (3) これは、近親相姦(レビ18:6~18)の罪に当たる。
- (4) 娘たちの内側にソドムの影響が残っていた。
- (5) ロトとその娘たちによって、ソドムがモアブ人とアモン人という形で再生した。
 - ① 姉が産んだ子 モアブ(父から)。モアブ人の先祖
 - ② 妹が産んだ子 ベン・アミ(私の民の息子、私の親族の息子)。アモン人の先祖
- (6) モアブは、今日のヨルダン中部、アモンはヨルダン北部。

4. この箇所を最後に、ロトの名前は聖書から消える。

- (1) 人類救済の歴史から見ると、彼の存在が何の意味も持たなくなった。
- (2) これ以降は、モアブとアモンがロトに代わって聖書の舞台に登場する。
 - ① イスラエルの民に対して、歴史上最悪の姦淫と偶像礼拝の罪を犯させる。
 - ② 民25章のバアル・ペオルの事件
 - ③ レビ18:21のモレク礼拝の禁止

結論

1. 神が最も憎まれる罪とは何か。

- (1) 罪には、深刻さの段階がある。
- (2) 同性愛の罪は、弁護の余地のないものである。
- (3) マタ11:23~24 メシアを拒否する罪は、さらに重い。

2. 絶望の中に見える希望の光とは何か(恵みの要素)。

(1) ロトの評価

- ① IIペテ2:6~9 ロトは義人
- ② ソドムに住むこと自体は、罪ではない。
- ③ ソドムの住民は、ロトが何を信じていたかを知っていた。
- ④ ロトは、義の行為ゆえに迫害された。
- ⑤ そうでなければ、今日、クリスチャンの住む場所がなくなる。

(2) ソドムの回復

- ① 千年王国において
- ② エゼ16:44~57

(3) モアブ人の子孫

- ① ルツの誕生
- ② 彼女は、ボアズと結婚し、オベデ、エッサイ、ダビデとつながる。
- ③ 彼女は、メシアの家系にその名を留めることになる。

【創世記31】創世記20章1節～21章7節

「イサク誕生の経緯」

イントロ：

1. 前回までの復習

- (1) 神はアブラムを選び、彼とその子孫を通して全人類を救おうとされた。
- (2) それがアブラハム契約である。
- (3) 子孫の約束は、アブラハム契約の条項の1つである。
- (4) アブラハムに息子が誕生しないなら、この条項は実現しないことになる。
- (5) アブラハムが100歳、サラが90歳で、イサクが誕生する。
- (6) その誕生は、すんなりとは行かなかった。

2. メッセージのアウトライン

(1) アビメレク事件

- ① 事件の背景
- ② アビメレクと神
- ③ アビメレクとアブラハム
- ④ 結末

(2) イサクの誕生

- ① 約束の成就
- ② サラの喜び
- ③ サラの認識

3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) 神の計画を妨害する闇の力が存在する。
- (2) 神は、最終的に勝利される。
- (3) クリスマンにとって希望とは何か。

このメッセージは、神にある勝利と希望について学ぼうとするものである。

I. アビメレク事件

1. 事件の背景(1～2節)

(1) アブラハムの移動

- ① ヘブロン（南の方角）の近く、マムレの榿（南の方角）の木（南の方角）の所から、ネゲブ地方（南の方角）への移動。
- ② ソドムとゴモラが見える所に留まりたくなかったのか。

- ③ 東にカデシュ。カデシュ・バルネアのこと。西にシュル。エジプトとの国境。
- ④ その中間にゲラルの町がある。ペリシテ人の地(平原)
- (2) アブラハムは、創12章で犯したのと同じ過ちを犯す。
 - ① 「アブラハムは、自分の妻サラのことを、『これは私の妹です』と言った」
- (3) イサクが誕生する前の年にこれが起こっている。
 - ① サラはまだ妊娠していないか、そのしるしが出ていない時。
 - ② アブラハムは、約束の子の誕生を再び危険にさらした。
- (4) アビメレクとは、個人名ではなく、ゲラルの王のタイトルである。
 - ① 個人名は分からない。
 - ② エジプトの王は「パロ」。
 - ③ 彼は、サラを召し入れた。
 - ④ イサクの誕生が危うくなった。

2. アビメレクと神(3～7節)

- (1) 夢の中での神の介入(異邦人も夢の中で神からの啓示を受ける)
- (2) 創世記にはそのような異邦人が5人いるが、すべて警告の言葉を受けている。
 - ① アビメレク
 - ② ラバン(31:24)
 - ③ パロに仕える献酌官
 - ④ パロに仕える調理官(40:5)
 - ⑤ パロ(41:1)
- (3) アビメレクへの警告

「あなたが召し入れた女のために、あなたは死ななければならない。あの女は夫のある身である」

 - ① アブラハムが語ったことは、半分真実で半分嘘。
 - ② アビメレクは、それを知らずにサラを召し入れた。
 - ③ それでもアビメレクが呪いを受けている。
 - ④ アブラハム契約が無条件契約であるから。
 - ⑤ アブラハム契約の祝福と呪いの条項が働いている。
- (4) アビメレクの弁明
 - ① 「アビメレクはまだ、彼女に近づいていなかった」
 - ② サラとの肉体関係をまだ持っていなかった。
 - ③ 「主よ。あなたは正しい国民をも殺されるのですか」
 - ④ 彼は、都市国家ゲラル全体の滅びを心配している。
 - ⑤ 彼は、無実の主張をする。

(5) 神の応答

- ① 夢は続いている。
- ② 神はアビメレクが無実であることを認められた。
- ③ アビメレクがサラに触れなかったのは、神が彼に罪を犯させないためであった。
- ④ 「今、あの人の妻を返していのちを得なさい。あの人は預言者であって、あなたのために祈ってくれよう」
* 聖書で初めて「預言者」という語が出てくる。「ナビ」。
* この指示に従えば、祝福が与えられる。
- ⑤ 「しかし、あなたが返さなければ、あなたも、あなたに属するすべての者も、必ず死ぬことをわきまなさい」
* 指示に従わないなら、裁きが家族全部にやって来る。

3. アビメレクとアブラハム(8～15節)

- (1) 「翌朝早く、アビメレクは彼のしもべを全部呼び寄せ、これらのことをみな語り聞かせたので、人々は非常に恐れた」
 - ① 「しもべ」とは、恐らく「助言者たち」のことであろう。
- (2) アブラハムを問い詰めるアビメレク
 - ① 「あなたは何ということをして、してくれたのか」
 - ② 「あなたが私と私の王国とに、こんな大きな罪をもたらすとは、いったい私がどんな罪をあなたに犯したのか」
 - ③ 「あなたはしてはならないことを、私にしたのだ」
 - ④ 異教の王が、神を知るアブラハムを叱責している。
 - ⑤ 2度目の叱責。「あなたはどのようなつもりで、こんなことをしたのか」
- (3) アブラハムの弁明
 - ① 「この地方には、神を恐れることが全くないので、人々が私の妻のゆえに、私を殺すと思ったからです」
 - ② 「また、ほんとうに、あれは私の妹です。あの女は私の父の娘ですが、私の母の娘ではありません。それが私の妻になったのです」
* モーセの律法ではこの結婚は禁止されるようになる。
* レビ 18：9、18：11、20：17、申 27：22、エゼ 22：11
 - ③ これは、アブラハムの25年にわたるポリシー。
* 従って、聖書に書かれている回数よりも頻繁にこれが起こった。
* このポリシーがうまく機能しなかった場合が、2度あった。

(4) アビメレクの対応

- ① 「そこでアビメレクは羊、牛および男女の奴隷を取ってアブラハムに与え、その妻サラを彼に返した」
- ② アブラハムは、エジプトの時と同様により豊かになった。
- ③ 「わたしの地はあなたの前にあります。あなたの好きな所に住みなさい」
* パロの場合と異なり、その地に住むことが許された。
* 未信者の寛容な心を見る。
- ④ アビメレクはサラに賠償金を支払い、決着をつけた。
「わたしは、銀一千シェケルをあなたの兄上に贈りました。それは、あなたとの間のすべての出来事の疑惑を晴らす証拠です。これであなたの名誉は取り戻されるでしょう」(新共同訳)

4. 結末(17～18節)

(1) 呪いの除去

(2) アブラハムが神に祈っている。

- ① アブラハム契約が無条件契約であることを示している。
- ② 呪いが取り除かれた。
- ③ 時間の経過が見られる。
- ④ アビメレクがサラを返したので、ユダヤ民族が誕生することになった。
- ⑤ その時神は、アビメレクに将来の彼の民を返された。

(3) アブラハムは祭司としての役割を果たしている。

II. イサクの誕生

1. 約束の成就

- (1) 17章、18章で約束されてきたことが成就した。
- (2) アビメレクの家を胎を開かれた主は、サラの胎も開かれた。
- (3) 「神がアブラハムに言われたその時期に」(創18:14)
「主に不可能なことがあろうか。わたしは来年の今ごろ、定めた時に、あなたのところに戻って来る。そのとき、サラには男の子ができています。」
- (4) イサクと命名
- (5) 8日目の割礼(聖書では、初めての記録)
- (6) アブラハム契約のしるし
- (7) アブラハムは100歳。約束が与えられてから、25年。
 - ① 神の約束の成就是、すぐにとは限らない。

② しかし、確実にやって来る。

2. サラの喜び

(1) 訳文比較

そしてサラは言った、「神はわたしを笑わせてくださった。聞く者は皆わたしのことで笑うでしょう」(口語訳)

サラは言った。「神は私を笑われました。聞く者はみな、私に向かって笑うでしょう」(新改訳)

サラは言った。「神はわたしに笑いをお与えになった。聞く者は皆、わたしと笑い(イサク)を／共にしてくれるでしょう」(新共同訳)

(2) 言葉遊びが2度出てくる。

(3) 積極的な意味で使われている。

(4) かつては、ハガルのような人々がサラのことを笑っていた。

(5) しかし、サラの予想通りにならないことが分かってくる。

3. サラの認識

(1) サラはまた言った。「誰がアブラハムに言いたでしょう／サラは子に乳を含ませるだろうと。しかしわたしは子を産みました／年老いた夫のために」(新共同訳)

(2) 不可能なことが起こったという認識。

(3) 「子に乳を含ませる」の「子」は複数形である。

① アブラハム契約を認識し、イサクから多くの子孫が誕生することを信じた。

(4) 「子を産みました」の「子」は単数形である。イサクのこと。

(5) 不信仰の笑いが、喜びの笑いとなった。

結論

1. 神の計画を妨害する闇の力が働いている。

(1) 創3:15の「女の子孫」の約束

(2) メシアの誕生を妨害するサタン之力

(3) 舞台裏で今も働く闇之力

2. 神は最終的に勝利される。

(1) 時間の経過の中でサラが守られた。

(2) 夢でアビメレクに語られた。

(3) サラはアブラハム契約の内容を理解した。

(4) ヨハ1:5

「光はやみの中に輝いている。やみはこれに打ち勝たなかった」

- ① アブラハムの子孫であるメシアの誕生
- ② 罪のない生涯
- ③ 贖罪の死
- ④ 3日目の復活

3. クリスマンにとって希望とは何か。

- (1) アブラハムは、イサク誕生までに25年待たされた。
- (2) 新約聖書の解説
 - ① ロマ4:17～22 望みえないときに望みを抱いて信じた。
 - ② ヘブ11:11～12 約束してくださった方を真実な方と信じた。
(例話) ある有名な伝道者の悲嘆の声
- (3) 祈りの答えがすぐに返って来ない時
 - ① 実は、答えは「希望」という形で返って来ている。
 - ② そこに、クリスマンの希望がある。
- (4) メシアの再臨、千年王国の確立、新天新地の出現は、将来成就すること。

【創世記32】創世記21章8節～34節

「イシュマエルの追放」

イントロ：

1. 前回までの復習

- (1) アブラハム契約の条項の中に、子孫の約束があった。
- (2) アブラハムが100歳の時、サラがイサクを産んだ。
- (3) アブラハムには、女奴隷のハガルが産んだイシュマエルがすでにいた。
- (4) 2人の息子の葛藤が予感されていた。

2. メッセージのアウトライン

- (1) イシュマエルの追放
- (2) 新約聖書との関係
- (3) ベエル・シェバでの契約

3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) 契約の重み
- (2) 聖書が教える「救い」の本質
(例話) 09年1月20日 オバマ大統領の宣誓式 最高裁長官ジョン・ロバーツ

このメッセージは、契約の重みについて学ぼうとするものである。

I. イシュマエルの追放(8～21節)

1. 乳離れの宴会(8～9節)

- (1) この時代、乳離れする年齢は3～5歳。
- (2) 当時イシュマエルは、17～20歳の間。
- (3) 当時は、誕生会ではなく乳離れの会を催した。盛大な宴会。
- (4) その宴会の中に、否定的な要素が1つあった。
 - ①「エジプトの女ハガルがアブラハムに産んだ子」
 - ② イシュマエルと言う代わりにエジプト人という国籍が強調されている。
 - ③ ハガルの憎しみが、イシュマエルの内に宿っている。
- (5) サラは、イシュマエルが自分の子イサクをからかっているを見た。
 - ① イサクの名前を種に彼をからかっている。
 - ② 言葉遊び 否定的な意味で。

- ③ 自分の子イサクを「イサクっている」のを見た(メツァヘック)。
- ④ サラはこれを個人攻撃と受け取った。
- ⑤ 17歳から20歳の間のイシュマエルが、幼子をからかっている。

2. サラの要求(10～13節)

- (1) 「このはしためを、その子といっしょに追い出してください」
- (2) 当時の法律と習慣
 - ① ヌジ碑文
 - ② ハムラビ法典
 - ③ 正妻の息子は、後に生まれたとしても妾の息子に優先する。跡取りとなる。
 - ④ 父はそれを受け入れたとしても、妾の息子を追放してはならない。
 - ⑤ それがアブラハムの悩みである。それゆえ、神の介入が必要となる。
- (3) アブラハムは苦しんだ。彼は、イシュマエルを非常に愛していた。
- (4) 神からの啓示
 - ① イサクに関して
 - * イサクが跡取りとなる。
 - * 夫が妻の言うことを聞けと命じられているのは、この箇所だけである。
 - * サラの動機がいかなるものであるにせよ、その計画は神の御心であった。
 - * 神の介入の結果、ハガルとイシュマエルが追放された。
 - ② イシュマエルに関して
 - * イシュマエルはアブラハム契約を継承することはない。
 - * しかし、彼もアブラハム契約の祝福に与ることができる。

3. 追放(14～16節)

- (1) アブラハムは5つのことをしている。
 - ① 翌朝、早く起きている。決断ができた。
 - ② パンと水の皮袋を取った。つまり、イシュマエルに相続財産はないのである。
 - ③ それをハガルに与え、彼女の肩に載せた。
 - ④ その子とともに。アブラハムはイシュマエルをハガルに委ねた。
 - ⑤ 彼女を送り出した。
- (2) 公式な追放
 - ① サラは、「追い出してください」(ガラッシュ)と言った。敵意あり。
 - ② アブラハムは「送り出した」(シャラッハ)。中立の言葉
 - ③ 創3:24と同じ。「こうして、神は人を追放して」
- (3) アブラハムが与えたパンと水は、次のオアシスまでのもの。

- ① ハガルは道に迷った。
- ② 命の危険に直面した。
- ③ 息子は青年であったが、先に死にそうになった。
- ④ 日陰の下に置いた。
- ⑤ 「矢の届くほど離れた」。相当の距離。息子の最期を見たくなかった。
- ⑥ 彼女は声を上げて泣いた。

4. 神の介入 (17～19節)

(1) 神の使いの声を聞いた。

- ① これが2度目。前は創16:11。
- ② イシュマエルという名前の由来はここにある。「神は聞かれる」

(2) 慰めのことば

- ① 「ハガルよ。どうしたのか」
- ② 「恐れてはいけない」
- ③ 「神があそこにいる少年の声を聞かれたからだ」

(3) 命令

「立って行って、あの子を抱き上げ、お前の腕でしっかり抱き締めてやりなさい。
わたしは、必ずあの子を大きな国民とする」

- ① 2人とも生き延びるという約束。
- ② アラブ民族の約束。
- ③ そのためには、イシュマエルが生き延びる必要がある。

(4) ハガルの目が開かれた。

- ① すでにそこにあった井戸
- ② 彼女には見えていなかった。

5. イシュマエルの成長 (20～21節)

(1) 神の役割は、少年とともにいること。

(2) イシュマエルは荒野で生活した。

(3) 職業は、弓を射る者。獵師。

- ① 創世記の文脈では、これは否定的な言葉。
- ② ニムロデ (創10:8～9)

(4) 結婚

- ① ハガルが彼のために嫁を選んだ。
- ② エジプト人。ハム系。
- ③ 彼らは、アンチ・セミティック (反ユダヤ主義者)。

II. 新約聖書との関係(ガラ4:21~31)

1. 手紙の背景

- (1) ユダヤ主義者の悪影響を受ける人々が出てきた。
- (2) それは、「ラビ的ユダヤ教」の教えを受け入れることである。
- (3) そこでパウロは、「旧約聖書のラビ的釈義」を提示する。
- (4) かつては、パウロ自身がラビ的ユダヤ教のリーダーの1人であった。
- (5) ラビ的釈義に基づく「束縛と自由の比較」である。

2. アブラハムの信仰

- (1) ハガルによって子を得る道は、「業による救い」を示している。
 - ① この道を追求するなら、イシュマエルという奴隷の子を得ることになる。
 - ② イシュマエルは、「律法の奴隷」を示している。
- (2) サラによって子を得る道は、「信仰と恵みによる救い」を示している。
 - ① この道を追求するなら、イサクという自由の子を得ることになる。
 - ② イサクは、「信仰による自由」を示している。

3. 5つの比較

- (1) 2人の女の比較
 - ① 女奴隷のハガルはシナイ契約を表している。
 - * この契約は、律法主義に人を閉じ込め、霊的な奴隷を生み出した。
 - ② サラはアブラハム契約(信仰義認)を表している。
- (2) 2人の息子の比較
 - ① 奴隷の子イシュマエル
 - ② 自由の子イサク
- (3) 2つの契約の比較
 - ① シナイ契約
 - ② アブラハム契約
- (4) 2つの山の比較
 - ① シナイ山(シナイ契約はシナイ山で結ばれた)
 - ② カルバリの丘(アブラハム契約はカルバリの丘で成就した)
- (5) 2つのエルサレムの比較
 - ① 地上のエルサレム(地上のエルサレムはローマの支配下にある)
 - ② 天のエルサレム(自由な町)

4. パウロの主張のまとめ

- (1) 救いの方法として、どちらを選ぶか。
 - ① 女奴隷のハガル(シナイ契約、律法主義)
 - ② 自由の女サラ(アブラハム契約、信仰義認)
- (2) 前者を選んだ者は奴隷の子となる。
- (3) 後者を選んだ者は自由の女の子となる。
- (4) 奴隷の子は、決して自由の女の子とともに相続人になることはできない。
- (5) 業による救いは私たちを奴隷にし、信仰による救いは私たちを自由にする。
- (6) 信仰義認の原則は、いかなる時代にも有効に機能してきた聖書の大原則である。

III. ベエル・シェバでの契約(21:22～34)

1. 契約の提案

- (1) そのころ：イサクの乳離れの時期、イシュマエルの追放の頃
- (2) 当事者：アビメレクと將軍ピコル。ピコルは、個人名ではなくタイトルである。
- (3) 彼らのとまどい
 - ① アブラハムは祝福されている。しかし、一度だまされたことがある。
 - ② アブラハムは、都市国家の王でも恐れるほどに力を増していた。
 - ③ 自分たちが真実を尽くしたように、自分たちにもして欲しい。

2. アブラハムの抗議

- (1) 井戸のことで抗議した。アビメレクのしもべたちが奪い取った。
- (2) アビメレクは、これについては無知であった。
- (3) アブラハムは承認した。

3. 契約の締結

(1) 平和の契約

「そこでアブラハムは羊と牛を取って、アビメレクに与え、ふたりは契約を結んだ」

- ① 普通は、ここまででよい。
- ② アブラハムは、それ以上のことをする。

(2) 正義の契約

- ① アブラハムはさらに、7頭の雌の子羊を与えた。
- ② 「私がこの井戸を掘ったという証拠となるために」
- ③ 「その場所はベエル・シェバと呼ばれた」

*シェバ 7つの井戸

*シャバ 誓いの井戸

(3) 1本の柳の木を植えた。

① 1本の柳の木を植えた。契約を記念するため。定住の決意。

*ぎょりゅう(タマリスク)。乾燥と塩分に強い。根を深く張る。

② 井戸の所有権が認められたので、安心して住めるようになった。

③ ベエル・シェバは、アブラハムとイサクの時代の活動の中心地となる。

(4) アブラハムは、そこで公の礼拝を始めた。

(5) ペリシテ人の地に滞在した。

① 「ペリシテ人の地」とあるが、当時は先住民の時代。

② 前12世紀にペリシテ人たちが移住してくる。

結論

1. 契約の重み

(1) イサクの誕生は、アブラハム契約の子孫の条項の成就である。

(2) イシュマエルの祝福は、アブラハム契約の祝福である。

(3) ベエル・シェバでの契約は、平和の契約である。

(4) ベエル・シェバでの契約は、正義の契約である。

2. 聖書が教える「救い」の本質

(1) 契約の重みから発想する必要がある。

(2) 奴隷の子になるのか、自由の子になるのか。

① 律法主義の奴隷か、信仰による自由の子か。

② 条件付きの救いか、無条件の救いか。

(3) よくある質問

① 信仰があれば、何をしてもいいか。

② クリスマンだと言いながら、いいかげんに生きている人はどうなるか。

(4) 回答

① 信仰により恵みによって救われる。

② いったん救われた人が救いを失うことはない。

③ その後どう生きるかによって、天国での評価が異なる。

④ 本当に救われた人は「いいかげん」に生きることができなくなる。

⑤ 神に立ち返る道が用意されている。

Iヨハ1:9「もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます」

【創世記33】創世記22章1節～19節

「イサクの奉献」

イントロ：

1. 前回までの復習

- (1) アブラハムには4回の転機(危機)が訪れた。
 - ① 父の家を出たこと
 - ② ロトとの別離
 - ③ イシュマエルの追放
 - ④ イサク奉献
- (2) アブラハムの成長とともにアブラハム契約の内容が明らかになっていく。
- (3) きょうの箇所では、アブラハム契約の全貌が明らかになる。

2. メッセージのアウトライン

- (1) 神の命令
- (2) アブラハムの従順
- (3) 神の介入
- (4) アブラハム契約の追認

3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) アブラハムの人生のクライマックス(最大の試練)
- (2) 聖書のメッセージのクライマックス(信仰義認)
- (3) メシアの死の予告(贖いの教理)

このメッセージは、聖書のメッセージのクライマックスについて学ぼうとするものである。

I. 神の命令(1～2節)

1. アブラハムのテスト(1節)

- (1) 「これらの出来事後」
 - ① イサク、イシュマエル、アビメレクのこと(21章)の後
 - ② 30～31年の経過が見られる。
- (2) アブラハムの生涯のクライマックスが訪れる。
 - ① 訳文比較

「神はアブラハムを試練に合わせられた」(新改訳)

「神はアブラハムを試みて」(口語訳)

「神はアブラハムを試された」(新共同訳)

②これは、神からのテストである。

2. 神は「アブラハムよ」と呼びかけた。

- (1) アブラハムは、「はい、ここにおります」と答えた(新改訳)。
- (2) 「ヒネイニ」というヘブル語。強調された言葉。
- (3) 創22章では、アブラハムは神に対してこの言葉しか語っていない。
- (4) もう1箇所は、創22:11。
- (5) 彼は数々の失敗を犯してきたが、ここでは神のことばに全面的に応答している。

3. 神の命令(2節)

(1) ヘブル語では、このテストは次第に痛みが激しくなっていくように書かれている。

- ① あなたの息子
- ② ひとり子
- ③ あなたの愛している子
- ④ イサク

(2) ラビ的伝承では次のようになっている。

- ① 「あなたの息子を連れて」。「私にはふたりの息子がおりますが」
- ② 「ひとり子だよ」。「それぞれが母親にとってはひとり子ですが」
- ③ 「あなたの愛している子だよ」。「私は両方とも愛していますが」
- ④ 「イサクだよ」

(3) 「ひとり子」のヘブル的意味

- ① 年齢や誕生の後先に関係はない。
- ② 質的意味が重要。イサクは約束の子、アブラハム契約が成就する子。
- ③ イスラム教徒の解釈は間違っている。

(4) 「モリヤの地に行きなさい」

- ① 創12:1と同じ。
- ② ヘブル語「レッフ・レハ」。「自分のために行け」、「あなたのためになる」。
- ③ この言い方は、2箇所にしか出てこない。

(5) 「モリヤの地」とは、ソロモンが神殿を建設する場所である(II歴3:1)。

- ① そこに着いたなら、イサクを全焼のいけにえとして捧げる。
- ② そこは、後にシオンの山と呼ばれる場所である(現在の神殿の丘)。

(6) テストの内容は2つある。

① アブラハムは、愛する息子を殺す(捧げる)だろうか。

② その子を通してアブラハム契約が成就する「ひとり子」を殺すだろうか。

* 人身供養が禁じられるのは、モーセの律法以降のことである。

* レビ18:21、20:1~5、申18:10

II. アブラハムの従順(3~10節)

1. 7つのステップがある(3節)。

(1) 翌朝早く

(2) アブラハムはろばに鞍をつけ

(3) ふたりの若い者と

(4) 息子イサクとをいっしょに連れて行った。

(5) 彼は全焼のいけにえのためのたきぎを割った。

(6) 立って、

(7) 神がお告げになった場所へ出かけて行った。

2. 到着(4節)

(1) 彼は100キロ前後を移動した。

(2) ほぼ3日の道のり。

(3) イサクをいけにえにする場所が、はるかかなたに見えた。

3. 若い者たちへの言葉(5節)

「あなたがたは、ろばといっしょに、ここに残っていなさい。私と子どもとはあそこに行き、礼拝をして、あなたがたのところに帰って来る」

(1) 「私と子ども」とある。

(2) アブラハムには、2人とも戻ってくるという信仰があった。

① 「イサクから出る者が、あなたの子孫と呼ばれるからだ」(21:12)

② イサクが死んだら、神が彼を復活させない限りこの約束は成就しない。

4. それから先の旅(6節)

(1) イサクは自分がある上で焼かれるためのたきぎを背負って歩んだ。

(2) メシアが十字架を背負って歩まれたのと同じ。

(3) アブラハムは、火と刀とを自分の手に取り、2人はいっしょに進んで行った。

(4) 父なる神が、御子を犠牲にされたのと同じ。イザ53:7~10。

5. イサクとアブラハムの対話(7～8節)

- (1) 「火とたきぎはありますが、全焼のいけにえのための羊は、どこにあるのですか」
- (2) 「神ご自身が全焼のいけにえの羊を備えてくださるのだ」
- (3) イサクはそれ以上は尋ねなかった。

6. ほふる準備(9～10節)

「ふたりは神がアブラハムに告げられた場所に着き、アブラハムはその所に祭壇を築いた。そうしてたきぎを並べ、自分の子イサクを縛り、祭壇の上のたきぎの上に置いた」

- (1) 当時は祭壇しかない。後に神殿が建つ。
- (2) イサクを縛った。
 - ① ユダヤ人たちの頭の中では、この動詞が印象深く残った。
 - ② この箇所は、「アケイダー」(縛り)と呼ばれる。
 - ③ ロシュ・ハシャナ(新年の祭り)に朗読される。
- (3) イサクは、幼児ではない。父に抵抗できる大人である。
- (4) しかし彼は、父に従った。信頼したからである。
- (5) 「アブラハムは手を伸ばし、刀を取って自分の子をほふろうとした」

III. 神の介入(11～14節)

1. 新しい命令

- (1) 「アブラハム。アブラハム」
 - ① 2度名前を呼んでいるのは、強調のため。
- (2) 彼は答えた。「はい。ここにおります」
 - ① ヘブル語で「ヒネイニ」。
- (3) 「あなたの手を、その子に下してはならない。その子に何もしてはならない」
- (4) 「今、わたしは、あなたが神を恐れることがよくわかった」
 - ① 神はアブラハムが神を恐れることを知っておられた。
 - ② それが今や、経験的知識となった。
- (5) わかった理由：
「あなたは、自分の子、自分のひとり子さえ惜しまないでわたしにささげた」

2. 雄羊

- (1) 角をやぶにひっかけている1頭の雄羊がいた。
 - ① この雄羊がイサクの身代わりであることを認識した。

(2) その雄羊を取り、それを自分の子の代わりに、全焼のいけにえとしてささげた。

① 「自分の子の代わりに」

② ラビ伝承もそれを認める。

③ アブラハムは、屠殺、血の注ぎかけなどすべての行為の過程で神に祈った。

「この行為が私の息子に為されたと、神が認めてくださるように」

3. 場所の命名

(1) 「アドナイ・イルエ」(新改訳)

(2) 「ヤーウェ・イルエ(主は備えてくださる)」(新共同訳)

(3) 格言となった。「主の山の上には備えがある」

(4) 主の山とはモリヤの山、後にシオンの山と呼ばれる場所(今日の神殿の丘)。

① そこは、将来「贖いの場」となる。

② そこに、いけにえが用意される。

4. ラビ伝承(ミドラッシュ・ラバー、ベレシット46:9)

(1) アブラハムが刀をイサクの喉に付けた時、イサクの魂は肉体を離れた。

(2) 神の声があつてから、その魂は肉体に戻った。

(3) イサクは、アブラハムが殺さなくても死んだ。そして、復活した。

(4) ラビ的伝承の中には復活という概念がある。

IV. アブラハム契約の追認(15～19節)

1. 5回目で、最後の、アブラハム契約の追認である。

(1) 「わたしは自分にかけて誓う」。神にとって可能な、最も厳粛な誓いである。

2. 4つの約束

(1) わたしは確かにあなたを大いに祝福し、

(2) あなたの子孫を、空の星、海辺の砂のように数多く増し加えよう。

(3) そしてあなたの子孫は、その敵の門を勝ち取るであろう。

(4) あなたの子孫によって、地のすべての国々は祝福を受けるようになる。

① 異邦人の祝福が含まれている。

② 創世記12章からこの約束が含まれていた。

③ 「子孫」(単数形)はメシアのこと

3. ベエル・シェバへの帰還

(1) アブラハムが言ったように、2人とも帰還した。

結論

1. アブラハムの人生のクライマックス (最大の試練)
 - (1) 信仰は、神のことばに完全に従う。
 - (2) 信仰は、神に最高のものを捧げる。
 - (3) 信仰は、神が与えてくださるのを待つ。

2. 聖書のメッセージのクライマックス (信仰義認)
 - (1) アブラハムは、すでに信仰によって救われていた (15:6)。
 - (2) 彼の信仰は、この行為によって証明された。
 - (3) ヤコ2:22~24の教えと一致する。

3. メシアの死の予表 (贖いの教理)
 - (1) イサクがたきぎを負って歩む姿は、メシアが十字架を負って歩む姿と重なる。
 - (2) 雄羊は、メシアの型である。
 - (3) 「ヤハウエ・イルエ」という地名
 - ① シオンの山のこと
 - ② そこで用意される最終的な犠牲とは、メシアの命のことである。
 - (4) アブラハムがイサクを取り戻したのは、復活の型である。
 - ① ヘブ11:17~19
 - (5) 型と実態がオーバーラップしない点がある。
 - ① イサクは、象徴的な意味で死んだだけである。
 - ② メシアは、文字通り死なれた。

【創世記34】 創世記22章20節～23章20節

「サラの埋葬」

イントロ：

1. 前回までの復習
 - (1) アブラハムは、生涯のクライマックスを信仰によって乗り越えた。
 - (2) 人生の仕上げの時期に入っている。

2. きょうの箇所
 - (1) カランに住む親族の情報が入ってきた。
 - (2) そんな折に、サラが死んだ。
 - (3) アブラハムはマクペラの墓地を購入する。
 - (4) そこにサラを埋葬する。

3. メッセージのアウトライン
 - (1) 親族の情報
 - (2) サラの死
 - (3) 墓地の購入

4. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。
 - (1) 人生の方向性を確認せよ。
 - (2) 一度確認した方向性を再吟味せよ。
 - (3) それに基づいて行動を起こせ。

このメッセージは、人生の方向性を確認するためのものである。

I. 親族の情報 (22:20～24)

1. 「これらの出来事の後」
 - (1) アブラハムのテストの後
 - (2) この箇所は、創24章の舞台設定となっている。
 - (3) イサクの嫁をどうするかという問題がある。

2. 遠方から親族の近況が伝えられた。
 - (1) カランに住む兄弟ナホルの一家の情報
 - (2) 長年交流がなかったのだろう。

(3) アブラハムに里心がついた。

例話：「北国の春」千昌男

白樺(しらかば) 青空 南風/こぶし咲くあの丘 北国の/ああ 北国の春/
季節が都会ではわからないだろうと/届いたおふくろの小さな包み/
あの故郷(ふるさと)へ帰ろかな 帰ろかな

3. ナホルとミルカに8人の子が生まれた。

(1) ナホルはアブラハムの兄。

(2) ハランもアブラハムの兄。ミルカはその娘(ロトと兄妹)。

(3) ナホルとミルカの結婚は、叔父と姪の結婚である。

① ウツ(彼の子孫が住んだ地は、ヨブの故郷となった。ヨブ1:1)

② ブズ(エリフの故郷。ヨブ32:2、5)

③ ケムエル(アラムの父)

④ ケセデ(カルデヤ人の先祖。ヨブ1:17)

⑤ ハゾ

⑥ ピルダシュ

⑦ イデラフ

⑧ ベトエル

(4) レウマというそばめも、4人の子を産んだ。

(5) ここで大事なのは、「ベトエルはリベカを生んだ」。

① 息子のラバンの名が出てこない。

② リベカの名が出てくるのは、創24章の舞台設定。

4. 神の導きの御手が見えてくる。

(1) イサク奉獻の後に、この情報がもたらされた。

(2) もしこれがないと、イサクは土地の娘と結婚したかもしれない。

① 同盟を結んでいたエモリ人マムレ、エシュコル、アネルの娘が考えられる。

(3) 一つの段階を過ぎると、次が見えてくる。これが導きの原則。

II. サラの死(23:1~2)

1. 「サラの一生、サラが生きた年数は百二十七年であった」

(1) 聖書の中で、死んだ時の年齢が書かれている女性は、サラだけである。

(2) それだけ、彼女が果たした役割は大きい。

(3) サラをたたえる言葉

① イザ 51：1～2

② I ペテ 3：5～6

(4) アブラハムは137歳。

(5) イサクは37歳。

2. サラはキルヤテ・アルバ(4人の村)で死んだ。

(1) 後に、ヘブロンと呼ばれる。

① アブラハムが「神の友」と呼ばれたから。

(2) 当時アブラハムは、ベエル・シェバに住んでいたため、ヘブロンまで来た。

① 2人の別居の理由は分からない。

② 約40キロの距離

III. 墓地の購入(23：3～20)

1. ヘテ人へのアブラハムの要請

(1) 「私はあなたがたの中に居留している異国人です」

① 約束の地に住みながら、体ひとつ葬る地もない状態。

(2) 「あなたがたのところで私有の墓地を私に譲っていただきたい」

(3) 「死んだ者を葬ることができるのです」

2. ヘテ人の答え

(1) 「あなたは私たちの間であって、神のつかさです」

① 彼らはアブラハムの存在を認めた。

② アブラハムは、大いなる名を与えられている。

(2) 「私たちの最上の墓地に、なくなられた方を葬ってください」

① 好きな墓地を選んで、埋葬を行ってください。

(3) 「私たちの中で、だれひとり、なくなられた方を葬る墓地を拒む者はありません」

① 保障が与えられた。

② 墓は無料で提供されたか、貸し出されたように見える。

③ しかし、これは交渉の第一段階である。

3. アブラハムの応答

(1) 「アブラハムは立って、その土地の人々、ヘテ人にていねいにおじぎをして」

① 中近東の交渉の習慣。アブラハムは時間をかけて、それを実行していく。

② 偶像礼拝には従わないが、社会的な習慣で中立のものには従う。

- (2) 「死んだ者を私のところから移して葬ることが、あなたがたのおこころであれば」
- (3) 「私の言うことを聞いて、ツォハルの子エフロンに交渉して、彼の畑地の端にある彼の所有のマクペラのほら穴を私に譲ってくれるようにしてください」
- (4) 「彼があなたがたの間でその畑地に十分な価をつけて、私に私有の墓地として譲ってくれるようにしてください」
 - ① アブラハムには、最高の額を払う用意がある。

4. エフロンの回答

- (1) 「エフロンはヘテ人たちの間にすわっていた」
 - ① 権威ある立場を示している。
- (2) 「ヘテ人のエフロンは、その町の門に入って来たヘテ人たちが聞いているところで、アブラハムに答えて言った」
 - ① ヘテ人たちが証人。この交渉は非常に公のものである。
 - ② 町の門で、取引や法的決定がなされた。
- (3) 「畑地をあなたに差し上げます。そこにあるほら穴も、差し上げます。私の国の人々の前で、それをあなたに差し上げます。なくなられた方を、葬ってください」
 - ① 無料での提供のように聞こえるが、額面通りに受け取ってはならない。
 - ② アブラハムは当時の中近東の習慣をよく理解していた。

5. アブラハムの提案

- (1) 再びおじぎをしている。習慣に則り、時間をかけて交渉を進めていく。
- (2) 無料の提供を断り、支払いを申し出ることは、当時の習慣にかなっている。

6. エフロンの値踏み

- (1) 「銀四百シケルの土地」。エフロンは土地の売却に同意した。
- (2) 「それなら私とあなたとの間では、何ほどのこともないでしょう」
 - ① これは決して高くはないという意味。
 - ② しかし、アブラハムは時価の10倍を要求されている。
 - ③ 中近東の習慣では、ここから、値下げ交渉が始まる。
- (3) 「どうぞ、なくなられた方を葬ってください」

7. アブラハムの同意

- (1) アブラハムは値下げ交渉をしないで、それを了承した。
- (2) 証人たちの前で、信用できる支払を行った。
「アブラハムはこのエフロンの言葉を聞き入れ、エフロンがヘトの人々が聞いている

ところで言った値段、銀四百シケルを商人の通用銀の重さで量り、エフロンに渡した」(新共同訳)

8. 交渉成立

- (1) 町の門で、商人たちの前で結ばれた契約は有効。
- (2) これまでにアブラハムは、井戸を所有していた。
- (3) それ以外には、約束の地で所有した地は、ここだけである。
- (4) 「畑地」まで含まれている理由は
 - ① ヘテ人の法律では、その土地の所有者は王に対して税を納める義務を負う。
 - ② エフロンは、納税の義務を負いたくなかった。
- (5) サラの埋葬

結論

1. アブラハムが墓地を買い、そこにサラを葬った理由

- (1) 創 22：20～24 アブラハムは75歳でハランを出た(創 12：4)。
 - ① そこには、家族の墓地があった。
 - ② サラをそこに葬ることも可能であった。
- (2) サラをマクペラの墓地に葬ったのは、ハランを故郷として放棄したことである。
- (3) アブラハムは、自分と子孫の将来はカナンの地にあることを認めた。

2. 私たちへの教訓

- (1) 人生の方向性を確認せよ。
 - ① イエスを信じたことは、自分が天の御国への旅人であることを認めたこと。
- (2) 一度確認した方向性を再吟味せよ。
 - ① 里心がつく時期がやって来る。人生の節目でやって来る。
 - ② ヨハ 21章の弟子たち。漁師に戻ろうとした。
- (3) それに基づいて行動を起こせ。
 - ① アブラハムに倣う者となれ。
 - ② ヘブ 11：8～10

「信仰によって、アブラハムは、相続財産として受け取るべき地に出て行けとの召しを受けたとき、これに従い、どこに行くのかわからないで、出て行きました。信仰によって、彼は約束された地に他国人のようにして住み、同じ約束をともに相続するイサクやヤコブとともに天幕生活をしました。彼は、堅い基礎の上に建てられた都を待ち望んでいたからです。その都を設計し建設されたのは神です」

【創世記35】創世記24章1節～31節

「イサクの嫁探し(1)」

イントロ：

1. 前回までの復習

- (1) アブラハムは、生涯のクライマックスを信仰によって乗り越えた。
- (2) 人生の仕上げの時期に入っている。
- (3) サラの墓の購入
- (4) イサクの嫁探し

2. きょうの箇所

- (1) 主役はアブラハムでもイサクでもない。
- (2) 主役はアブラハムのしもべである。
- (3) 脇役は、リベカとラバンである。
- (4) 24章は長い章なので、2回にわけて学ぶ。

3. メッセージのアウトライン

- (1) アブラハムとしもべの契約
- (2) しもべの旅と祈り
- (3) リベカの登場
- (4) ラバンの登場

4. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

(例話) 米沢から発信する、兼続専門サイト

「大河ドラマ『天地人』の主人公直江兼続は、関が原の合戦後、数万ともいわれる上杉の家臣や家族と共に米沢に移り住みました。そして、現在の米沢市街地の基礎を築きます。(中略)『愛』と『義』に生きた直江兼続。そんなところ優しき男に会いたくなったら、ぜひ米沢にお越し下さい」

- (1) 直江兼続の生き方が求められるのは、現代の精神性が荒廃しているから。
- (2) 自分のためにしか、信仰を考えることができない時代なのかもしれない。
- (3) 「しもべ」の心と姿勢を学ぶ。
- (4) 「しもべ」を祝福する神の目に見えない手(摂理)を確認する。

「『愛』と『信仰』に生きたアブラハムのしもべ。そんなところ優しき男に会いたくなったら、ぜひ創世記24章をお聞きください」

このメッセージは、しもべとしての生き方を確認するためのものである。

I. アブラハムとしもべの契約(24:1~9)

1. 背景

- (1) アブラハムは140歳になっていた。
- (2) 主は、あらゆる面でアブラハムを祝福しておられた。
 - ① アブラハム契約の祝福が成就している。
 - ② 土地の約束を除いて。
- (3) 彼の関心事は、イサクの嫁をどうするかということ。

2. しもべへの語りかけ

(1) 家の最年長のしもべ

- ① アブラハムの全財産を管理していたしもべ
- ② ダマスコのエリエゼル

創15:2「そこでアブラムは申し上げた。『神、主よ。私に何をお与えになるのですか。私には子がありません。私の家の相続人は、あのダマスコのエリエゼルになるのでしょうか』」

- ③ もしイサクが誕生していなければ、彼が相続人となっていた。
 - * イサク誕生とともに、その可能性は消えた。
 - * あるいは、イシュマエル誕生の時かもしれない。
 - * 彼は、苦々しい思いを抱かなかった。

(2) 彼に新しい使命が与えられた。

- ① イサクの嫁探しである。
- ② アブラハムがいかにエリエゼルの信頼していたかが分かる。

(3) 契約のための儀式

「あなたの手を私のもの下に入れてくれ」

- ① 婉曲法、生殖器をつかむこと
- ② 厳粛な契約を意味する。
 - * 不履行の場合は、子どもたちが復讐するという意味である。
 - * 割礼による契約に匹敵するものである。

(4) 証人

「私はあなたに、天の神、地の神である主にかけて誓わせる」

- ① 神が証人となる。

(5) 誓いの内容

① すべきでないこと

- * カナン人の娘の中から、イサクの妻を見つけてはならない。
- * カナン人との雑婚は、土地の相続権を放棄する結果になるかもしれない。

② すべきこと

- * 生まれ故郷(アラム)の親族のもとに行き、そこから嫁を迎える。
- * 親族の情報がその前に与えられていた：創22：20～24。

3. しもべの質問

「もしかして、その女の人が、私についてこの国へ来ようとしないうち、お子を、あなたの出身地へ連れ戻さなければなりませんか」

- (1) イサクとの結婚を了承する女がいたとして
- (2) その女がカナンの地に来ることを拒む場合、イサクをアラムに送るべきか。

4. アブラハムの答え

「私の息子をあそこへ連れ帰らないように気をつけなさい。」(新改訳)

「決して、息子をあちらへ行かせてはならない。」(新共同訳)

- (1) 日本語訳には出ないが、「あなたは」に強調がある。
- (2) イサクの将来は、カナンの地にしかない。
- (3) アブラハムの確信

「天の神である主は、わたしを父の家、生まれ故郷から連れ出し、『あなたの子孫にこの土地を与える』と言って、わたしに誓い、約束してくださった。その方がお前の行く手に御使いを遣わして、そこから息子に嫁を連れて来ることができるようにしてくださる」(新共同訳)

- ① 天使の奉仕：これ以降の記述に出てこない。
- ② 標準的な天使の役割：見えない形で神の計画を実行する。

(4) 例外規定(但し書き)

「もし、その女があなたについて来ようとしないうち、あなたはこの私との誓いから解かれる。ただし、私の息子をあそこへ連れ帰ってはならない」

- ① これは、しもべの不安を取りのけるためのもの。
- ② アブラハムの視点：アラムに行って結婚生活を送るよりは、カナンの地で独身生活を送る方がよい。

5. 実際の誓い

- (1) ももの下に手を入れている。

II. しもべの旅と祈り (24:10～14)

1. しもべの旅

- (1) 10頭のらくだ：キャラバン隊を組んでの旅
- (2) 主人のあらゆる貴重な品々：花嫁料となる。
- (3) 贈り物と10という数字
 - ① ヤコブの贈り物 創32:15
「乳らくだ三十頭とその子、雌牛四十頭、雄牛十頭、雌ろば二十頭、雄ろば十頭」
 - ② ヤロブアムの贈り物 I列14:3
「パン十個と菓子数個、それに、蜜のびん」
 - ③ ナアマンの贈り物 II列5:5
「銀十タラントと、金六千シェケルと、晴れ着十着」

2. 行先

- (1) アラム：ナハライム
 - ① 2つの川のアラム（シリア）という意味
 - ② ナホルの町とは、ハラシ（創12:4）のこと。
- (4) 距離は450マイル（720キロ）
 - ① 新幹線で、ほぼ東京から岡山までの距離

3. 井戸のそばで

「彼は夕暮れ時、女たちが水を汲みに出て来るころ、町の外の井戸のところに、らくだを伏させた」

- (1) 今でも、中東のアラブ人の村では、夕暮れに女が水を汲みに来る習慣がある。
- (2) 井戸のそばで男が女と会話し、結果的に結婚につながるケースが3度ある。
 - ① 最初がこの箇所
 - ② ヤコブとラケルの出会い 創29:1～14
 - ③ モーセとチッポラの出会い 出2:15～21

4. しもべの祈り

- (1) 自分のためではなく、主人アブラハムの祝福を祈っている。
- (2) しるしを求めている。
 - ① 水を求めた時に、自発的に10頭のらくだにも水を飲ませてくれる娘
 - ② その娘は、勤勉、恵みと愛に満ちている。
- (3) その娘がイサクの嫁になる。

Ⅲ. リベカの登場(24:15～27)

1. リベカの登場

- (1) 水がめを肩に載せて
- (2) しもべの祈りが終わらないうちに
- (3) 「リベカはアブラハムの兄弟ナホルの妻ミルカの子ベトエルの娘であった」
 - ① ベトエルとイサクは、従兄に当たる。
 - ② イサクから見ると、リベカは従兄の娘に当たる。
- (4) 「この娘は非常に美しく、処女で、男が触れたことがなかった」
 - ① イサクの母のサラと同じ。創12:11
 - ② 処女：ヘブル語で「ベツラー」
 - ③ 別の言葉としては、「アルマー」がある(イザ7:14)
「それゆえ、主みずから、あなたがたに一つのしるしを与えられる。見よ。処女がみごもっている。そして男の子を産み、その名を『インマヌエル』と名づける」
 - ④ 「ベツラー」は、年齢と状態を表す言葉。
 - ⑤ それゆえ、「男が触れたことがなかった」という補足が必要であった。
- (5) この娘は、水がめに水を満たし、上がって来た。

2. リベカのテスト

- (1) しもべは、彼女に会いに走って行った。これは、緊急性を表している。
- (2) 彼女を試すための質問をしている。
「どうか、あなたの水がめから、少し水を飲ませてください」
- (3) 彼女は、水をアブラハムのしもべに与えた。
 - ① これは当時の習慣では普通のことで、「しるし」ではない。
- (4) 次に、申し出をしている。
「あなたのらくだのためにも、それが飲み終わるまで、水を汲んで差し上げましょう」
「らくだにも水をくんで来て、たっぷり飲ませてあげましょう」(新共同訳)
- (5) らくだは、大量の水を飲む。
「彼女は急いで水がめの水を水ぶねにあげ、水を汲むためにまた井戸のところまで走って行き、その全部のらくだのために水を汲んだ」
- (6) 彼女は、テストに合格した。
 - ① 優しい。
 - ② 活動的、泉とらくだの間を何度も往復した。
 - ③ らくだは最大80リットルの水を飲むことができる。
* 50リットルとすると、合計500リットルとなる。
- (7) しもべは、この娘が祈りの答えであるかどうか、慎重に観察している。

3. リベカとの対話

(1) らくだが飲み終わった時に、贈り物を渡した。

「らくだが水を飲み終わったとき、その人は、重さ一ベカの金の飾り輪と、彼女の腕のために、重さ十シェケルの二つの金の腕輪を取り、」

①「飾り輪」とは、直訳すると鼻輪である。

②額から鼻の上のあたりに垂れ下がって来る飾りのこと

(2) しもべの2つの質問

「あなたは、どなたの娘さんですか。どうか私に教えてください」

「あなたの父上の家には、私どもが泊めていただく場所があるでしょうか」

(3) リベカの2つの答え

「私はナホルの妻ミルカの子ベトエルの娘です」

①彼女は、アブラハムの親戚に属する。

②これは、アブラハムが示した条件の一部である。

「私たちのところには、わらも、飼料もたくさんあります。それにまたお泊まりになる場所もあります」

①らくだだけでなく、全員への招待である。

(4) しもべの2つの応答

「そこでその人は、ひざまずき、主を礼拝して、言った。「私の主人アブラハムの神、主がほめたたえられますように。主は私の主人に対する恵みとまこととお捨てにならなかった。主はこの私をも途中つつがなく、私の主人の兄弟の家に導かれた」

①礼拝

②感謝

*アブラハムが神と契約関係にあることを認識している。

*目に見えない天使の摂理的な導きを認識している。

IV. ラバンの登場 (24:28～31)

1. リベカは走って帰った。

(1) ここでも、緊急性がある。

(2) 彼女は、活発な女性である。

2. 両親ではなく、兄のラバンが対応している。

(1) ラバンはすぐに、泉のところにいるアブラハムのしもべのもとへ走った。

(2) しもべは、次に神がされることを見るために、そこにとどまっていた。

- (3) ラバンの動機：彼は、家族関係に関心があるのではなく、富に関心がある。
- ① 「彼は鼻の飾り輪と妹の腕にある腕輪を見、」
- (4) 後にヤコブがラバンの家に寄留するようになる。
- ① ヤコブは、叔父ラバンの貪欲な性質に苦しむことになる。
- (5) ラバンの言葉
- 「どうぞおいでください。主に祝福された方。どうして外に立っておられるのですか。私は家と、らくだのための場所を用意しております」
- ① 彼は神に関する知識を持っていた。
 - ② まだ準備はできていなかったが、すぐに関係を結びたかった。
 - ③ 彼は、富にひかれていた。

結論

1. 「しもべ」の心と姿勢

- (1) 長子の権を失っても、苦々しい思いを抱いていない。
- (2) 主人アブラハムの最善を願っている。

2. 「しもべ」を祝福する神の見えざる御手

- (1) 最初に井戸に来た娘が、アブラハムが提示した条件に合っている。
 - (2) しもべが「しるし」として求めたことを、娘は実行している。
- (例話) 成長セミナーの第11課「聖書的スチュワードシップ」
「す早く聞かれた祈りの答え」

3. 自らが祈りの答えとなったりベカの行動

- (1) 「ノー」と言うこともできた。
 - (2) しもべに水を与えるだけで終わることもできた。
 - (3) 彼女は、らくだに水をやることを申し出た。
- ① 兄のラバンは、この世の精神性を表している。
 - ② リベカは、神の国の精神性を表している。

マタ 5:16 「このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい」

【創世記36】 創世記24章32節～67節

「イサクの嫁探し(2)」

イントロ：

1. 前回までの復習

- (1) 世代交代が起こっている。
 - ① サラが亡くなった。
 - ② アブラハムも人生の総仕上げの時期に入っている。
 - ③ 息子イサクの嫁の心配をしている。
- (2) 嫁探しのために、しもべを親族のもとに派遣する。ダマスコのエリエゼル。
- (3) しもべは井戸のそばでリベカに会い、彼女が親族の娘であることを知る。
- (4) リベカの兄のラバンによって家に招かれる。

2. きょうの箇所

- (1) 家に入ってからのエリエゼルの姿。
- (2) いかにして彼が、使命を全うするのか。

3. メッセージのアウトライン

- (1) エリエゼルの説得
- (2) リベカの決断力
- (3) イサクの愛

4. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) 前回同様、「しもべ」の心と姿勢を学ぶ。
- (2) 神の導きを確認するイサクとリベカの行動。
- (3) 聖書の結婚とは何か。

このメッセージは、神の導きを確認する人々の生き方を確認するためのものである。

I. エリエゼルの説得(24:32～49)

1. 真剣な姿

- (1) ラバンのもてなし
 - ① らくだのため
 - ② 従者たちのため
 - ③ エリエゼルのため

- (2) 中東の豪華な食事が始まる前に、しもべは用件を述べる。
 - ① 食事よりも重要なものがある。
 - ② 食事が喉を通らない状態。
- (3) エリエゼルはこの経緯をすべて語っている。
 - ① 読者には、同じことの繰り返しである。
 - ② この使命の重要性を伝えるために
 - ③ リベカがカナンの地に行くことがいかに重要であるかを伝えるため
- (4) 熱心な姿勢が、相手を動かす。

2. 説得のことは

- (1) 自己紹介(同時に、主人アブラハム、息子イサクの紹介)
 - ① 「私はアブラハムのしもべです」という自己認識
 - ② イサクの誕生をねたまなかつた忠実なしもべ
 - ③ 主人の祝福だけを願うしもべ
(例話) パウロの自己認識:
「キリスト・イエスのしもべ」「イエスのために、あなたがたに仕えるしもべ」
 - ④ アブラハムが主から受けている祝福
「①羊、②牛、③銀、④金、⑤⑥男女の奴隷、⑦らくだ、⑧ろば」
 - ⑤ イサクの紹介
「私の主人の妻サラは、年をとってから、ひとりの男の子を主人に産み、主人はこの子に自分の全財産を譲っておられます」
*サラは、90歳になってからイサクを産んだ。
*イサクは、全財産の相続人。ダマスコのエリエゼルではない。
*また、イシュマエルでもない。
- (2) 主人との誓い
 - ① カナン人の娘をイサクの妻にめとってはならない。
 - ② 親族のところに行って、イサクのために妻を迎えなくてはならない。
 - ③ しもべの心配：その娘がついて来ない場合は、どうするのか。
 - ④ アブラハムの確信：主が御使いを遣わし、その旅を成功させてくださる。
(例話) マタ18:10「彼らの天の御使いたち」。ヘブ1:14参照。
 - ⑤ 例外規定：親族が娘を与えない場合、しもべは誓いから解かれる。
- (3) 祈りの内容
 - ① 神への叫び
 - ② しるしを求めた
 - ③ 43節の「おとめ」は、「ベツラー」ではなく、「アルマー」(16節とは異なる)。

④「どうぞお飲みください。私はあなたのらくだにも水を汲んであげましょう」

(4) 祈りの答え

- ① リベカはテストに合格した。
- ② リベカは親戚の娘であった。
- ③ しもべは、リベカに装飾品を付けた。
- ④ 主に礼拝と賛美を捧げた。

3. 返事を要求

- (1) イエスカノーか。
- (2) それによって、自分の態度を決める。
- (3) 御心であるとの確信があるが、それを100パーセント見るまでは安心しない。
- (4) ラバンとベトエルが、主の導きであることに同意した。
 - ① 人間がイエスとかノーとか言う問題ではない。
 - ② 当時の習慣では、こういう場合の兄の関与は珍しくはない。
- (5) しもべは、祈りが100パーセント聞かれたことを知って、礼拝している。
- (6) 花嫁料を払った。これで、正式な婚約が成立した。
- (7) それから、ようやく食事にありついた。安心して食べた。

II. リベカの決断力

1. エリエゼルと家族との対話

- (1) 翌朝：帰国したいという願い。一日も無駄にしたくない。
- (2) 兄と母：10日間ほどとどめておきたい。
- (3) 神が急いでおられる。それゆえ、エリエゼルも急ぐ。
- (4) リベカの意見を聞く。
 - ① きっと彼女は遅らせてほしいと言うだろうという期待がある。
 - ② 古代中東の習慣では、娘の意見を聞かなくてもよい。
 - ③ フルリ人の法律では、娘の意見を聞かなければならない。

2. リベカの決断力

- (1) リベカは、すぐに行くことに同意した。
- (2) 家族は、リベカをその乳母とともに送り出した。
 - ① デボラ (35：8)
 - ② 死の時には、ヤコブの家族の一員になっていた。

(3) 婚約の祝福の祈り

「われらの妹よ。あなたは幾千万にもふえるように。

そして、あなたの子孫は敵の門を勝ち取るように」

(4) 創22:17と同じ。イサク奉献の後の神の祝福のことば。

「わたしは確かにあなたを大いに祝福し、あなたの子孫を、空の星、海辺の砂のように数多く増し加えよう。そしてあなたの子孫は、その敵の門を勝ち取るであろう」

(5) カナンの地への旅

① 乳母のデボラ以外に何人かの侍女たちがいた。

② 彼女たちは、らくだに乗って旅をした。

III. イサクの愛

1. イサクの登場

(1) 父のアブラハムと同様に、ネゲブの地に住んでいた。

(2) ベエル・ラハイ・ロイはネゲブにある地名。

① 創16:14 ハガルが主の使いに出会い、水を得た場所。

② その井戸は、イサクの所有になっていた。

(3) 「イサクは夕暮れ近く、野に散歩に出かけた」(新改訳)

「イサクは夕暮、野に出て歩いていた」(口語訳)

「夕方暗くなるころ、野原を散策していた」(新共同訳)

英語訳では、「黙想するために」と訳しているのが多い。

(4) これは、イサクの夕暮れの祈りの時間である。

(5) 「彼がふと目を上げ、見ると、らくだが近づいて来た」

① キャラバンが見えた。

② その中に、自分の妻になる人がいるという期待はあったであろう。

2. リベカの登場

(1) イサクだと分かる前に、らくだから降りている。

① 遠くから見た姿に何かを感じたのであろう。

② もし「一目ぼれ」という感情があったとするなら、ここである。

(2) イサクだと分かると、ベールを取って顔を隠した。

① 結婚の夜は、花嫁は顔をベールで覆った。

② 後にヤコブは、その方法でだまされた。

(3) しもべのイサクへの報告

① イサクは、この娘が自分の妻であることを確信した。

② すべてがアブラハムとしもべの誓約通りになった。

3. 結婚式

「イサクは、その母サラの天幕にリベカを連れて行き、リベカをめとり、彼女は彼の妻となった」

(1) 結婚式：母サラの天幕にリベカを連れて行く。

- ① サラが死んでから3年
- ② 天幕は空であったが、結婚式のためにそこに用意されていた。
- ③ リベカがそこに入ることが、当時の習慣による結婚式。

(2) 次に、夫婦の初めての肉体関係がある。

(3) 「彼は彼女を愛した。イサクは、母のなきあと、慰めを得た」

結論

1. 「しもべ」の心と姿勢

- (1) 長子の権を失っても、苦々しい思いを抱いていない。
- (2) 主人アブラハムの最善を願っている。
- (3) 神が急いでおられるので、自分も急ぐ。
- (4) アブラハムのしもべであることを誇りとしている。

2. 神の導きを確認するイサクとリベカ

- (1) リベカの決断力
- (2) イサクの愛
 - ① 夕暮れの祈りの時間に、神からの祈りの答えを受けた。
 - ② 彼は彼女を愛した。

3. 聖書的結婚の3つの要素

- (1) お互いに対する献身
 - ① 恋愛感情がなくても、献身の決意はできる。
 - ② 相手を愛そうという献身の決意である。
- (2) 結婚式
 - ① 社会的に結婚式と認められるような形式
 - ② ユダヤ人は天蓋の下で行う。指輪の交換、三三九度など。
- (3) 肉体的関係によって、夫婦がひとつとなる。

【創世記37】創世記25章1節～18節

「アブラハムからイシュマエルのトルドットへ」

イントロ：

1. 創世記は11のトルドットに区分される。
2. 私たちは長い間、第6のトルドットに留まっていた。
 - (1) 創11：27～25：11「これはテラの歴史である」
 - (2) トルドットとは、「歴史」、「経緯」のこと。
 - (3) 「テラの歴史」とは、テラの子孫であるアブラハムの歴史のことである。
 - (4) いよいよ、アブラハムの歴史が終わりを迎える。

伝道者の書7：2

3. きょうの箇所とメッセージのアウトライン
 - (1) もう1人の妻ケトラ
 - (2) アブラハムの死
 - (3) イシュマエルのトルドット
4. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。
 - (1) 死ぬ前にしておくべき3つのこと

このメッセージは、いかに人生を終えるべきかを教えるものである。

I. もう1人の妻ケトラ(25：1～6)

1. アブラハムの年齢
 - (1) サラが死んだ時、137歳であった。
 - (2) その後、38年生きて、175歳で死ぬ。
2. アブラハムとケトラの結婚
 - (1) 創25：1「もうひとりの妻」
 - (2) I歴1：32「そばめ」
3. ケトラはアブラハムに6人の息子たちを産んだ。アブラハムは8人の息子を得た。
(例話) アブラハムには7人の子

原作詞・原作曲は不明。

名古屋 YMCA のレクリエーション・リーダー加藤孝広氏が日本語の詞を付けた。

- (1) ジムラン アラビア半島の西海岸地区に広がる。
- (2) ヨクシャン アラビア半島の南部に広がる。
- (3) メダン エイラートの南、アカバ湾の東に広がる。
- (4) ミデヤン アラビア半島の北西からシナイ半島の南部に広がる。
 - ① イスラエルの民との接触の多い民族
 - ② 聖書箇所
創 37 : 28、出 2 : 15 ~ 3 : 1、18 : 1、
民 25 : 16 ~ 18、ヨシ 13 : 21、士 6 : 1 ~ 7 : 25 など
- (5) イシュバク エドムの地、現在のヨルダン南部に広がる。
- (6) シュアハ シリアからアラビアにかけての砂漠に広がる。

4. アブラハムの孫たち

- (1) 次男のヨクシャンから出た孫 2 人
 - ① シェバ
 - ② デダン
- (2) 孫のデダンから出たひ孫 3 人
 - ① アシュル人
 - ② レトシム人
 - ③ レウミム人
- (3) 4 男のミデヤンから出た孫 5 人
 - ① エファ
 - ② エフェル
 - ③ エノク
 - ④ アビダ
 - ⑤ エルダア

5. 創 17 : 4 の成就

「わたしは、この、わたしの契約をあなたと結ぶ。あなたは多くの国民の父となる」

6. 財産分与 (25 : 5 ~ 6)

「アブラハムは自分の全財産をイサクに与えた。しかしアブラハムのそばめたちの子らには、アブラハムは贈り物を与え、彼の生存中に、彼らを東のほう、東方の国にやって、自分の子イサクから遠ざけた」

- (1) 「アブラハムのそばめたち」とは、ハガルとケトラである。
- (2) 「子どもら」とは、7人の息子たちである。
- (3) アブラハムは、イサクとそばめの子らとを区別した。
 - ① 相当の贈り物を与えたが、これは一度限りのもの、餞別のようなものである。
 - ② 彼らをイサクから遠ざけた。
 - ③ 彼らを約束の地から遠ざけた。
 - ④ ヨルダン川の東側、アラビアの地方に送った。
- (4) 彼らは、アブラハム契約の継承者でも、その一部でもない。
- (5) 自分の死後、息子たちの間に争いが起きないように、生前に問題を解決。

II. アブラハムの死 (25: 7～11)

1. 第6のトルドット (創11: 27～25: 11) が、ここで終了する。
「これはテラの歴史である」

2. アブラハムの死と埋葬

- (1) 彼は、175歳で死んだ。
- (2) これは、創15: 15の成就である。
「あなた自身は、平安のうちに、あなたの先祖のもとに行き、長寿を全うして葬られよう」
- (3) イサクは75歳。
- (4) エサウとヤコブは15歳。
- (5) アブラハムは、イサクから誕生した孫を見ることができた。
 - ① 創世記の記述は、必ずしも時間順ではない。
 - ② 1つの物語を終了させてから、他の物語に入る。

3. 死後の命への信仰

「アブラハムは平安な老年を迎え、長寿を全うして息絶えて死に、自分の民に加えられた」

- (1) 「自分の民に加えられた」とは、肉体的なことではなく、霊的なこと。
- (2) この時代から、死後の命への信仰があった。

4. イサクとイシュマエルとが、アブラハムをマクペラの墓地に葬った。

- (1) サラが葬られていた墓
- (2) 子孫の将来は、カナンの地にしかないとの信仰告白

5. イサクの祝福

「アブラハムの死後、神は彼の子イサクを祝福された。イサクはベエル・ラハイ・ロイの近くに住みついた」

- (1) これまでは、アブラハムの家族の一員であるがゆえに、神からの祝福を受けた。
- (2) 父の死後、イサクはアブラハム契約の継承者として、神から直接祝福を受けた。
- (3) ベエル・ラハイ・ロイ
 - ① 主の御使いがハガルに現れ、イシュマエルの誕生を告げた場所。
 - ② この場所は、イシュマエルではなく、イサクが所有した。

III. イシュマエルのトルドット (25:12～18)

1. 第7のトルドット 非常に短い

「これはサラの女奴隷エジプト人ハガルがアブラハムに産んだアブラハムの子イシュマエルの歴史である」

- (1) イシュマエルの子孫はどうなったかという歴史
- (2) イシュマエルは、エジプト人ハガルがアブラハムに生んだ息子。
- (3) 12人の息子の名が列挙される。

「すなわちイシュマエルの子の名は、その生まれた順の名によれば、イシュマエルの長子ネバヨテ、ケダル、アデベエル、ミブサム、ミシュマ、ドマ、マサ、ハダデ、テマ、エトル、ナフィシュ、ケデマである」

2. イシュマエルに対して示された神の真実

- (1) イシュマエルから、12部族が出た。創17:20の成就。

「イシュマエルについては、あなたの言うことを聞き入れた。確かに、わたしは彼を祝福し、彼の子孫をふやし、非常に多く増し加えよう。彼は十二人の族長たちを生む。わたしは彼を大いなる国民としよう」

3. イシュマエルは、137歳で死んだ。

- (1) イサクのトルドットに入る前に、イシュマエルを終えておくのが創世記の流儀。
- (2) イシュマエルは傍系であって、主流はあくまでもイサクである。

4. イシュマエルの子孫たちの領土

「イシュマエルの子孫は、ハビラから、エジプトに近い、アシュルへの道にあるシュルにわたって、住みつき」

- (1) 北はユーフラテス川から、南は紅海まで

- (2) 西はシナイ半島の北から、東はバビロンの西国境まで
- (3) ほぼ、アラビア半島全域にわたる。
- (4) イシュマエルの子孫がアラブ人であるという証拠は、地理的分布である。

5. 「それぞれ自分のすべての兄弟たちに敵対して住んだ」

- (1) 創16:12の成就
- (2) やがて彼らも、キリストによる救いに入れられる。イザ19:23～25

結論：死ぬ前にしておくべき3つのこと

1. 死後の命の確認

- (1) アブラハムはすでにイサク奉獻の時に、復活信仰を得ている。
- (2) 「自分の民に加えられた」という表現は、死後の命の希望を示している。
- (3) この表現は、モーセの5書に10回出てくる。

- * 創25:8 アブラハム
- * 創25:17 イシュマエル
- * 創35:29 イサク
- * 創49:29 ヤコブ
- * 創49:33 ヤコブ
- * 民20:24 アロン
- * 民20:26 アロン
- * 民27:13 モーセ
- * 民31:2 モーセ
- * 申32:50 アロンとモーセ

- (4) 人生の成否は、この希望にかかっている。

2. 財産の分与

- (1) 子どもたちの間に争いのないように
- (2) イサク以外の子どもたちを遠方に遠ざける

3. 信仰の継承

- (1) アブラハム契約の継承者としてのイサク
- (2) イサクは、直接神から祝福を受ける立場に立った。

【創世記38】創世記25章19節～34節

「エサウとヤコブの誕生」

イントロ：

1. 創世記は11のトルドットに区分される。
 - (1) 第6のトルドットは、創11：27～25：11で、「テラの歴史」
 - (2) 第7のトルドットは、創25：12～18で、「イシュマエルの歴史」
 - (3) 第8のトルドットは、創25：19～35：29で、「イサクの歴史」

2. きょうの箇所とメッセージのアウトライン
 - (1) 誕生前の預言
 - (2) ふたごの誕生
 - (3) ふたごの成長
 - (4) 長子の権利の売り渡し

3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。
 - (1) 神の選びの確かさ
 - (2) 選びに対する人の応答の必要性

このメッセージは、神の選びと人の応答の必要性のバランスを教えるものである。

I. 誕生前の預言 (25：19～23)

1. イサクのトルドットの始まり
「これはアブラハムの子イサクの歴史である。アブラハムはイサクを生んだ」
 - (1) 他のトルドット同様、「これはイサクの歴史である」というタイトルで始まる。
 - (2) 「イサクの歴史」とは、イサクの息子たちに何が起こったかという記録である。

2. イサクは40歳で結婚。
 - (1) 妻はリベカ
 - ① パダン・アラムのアラム人(シリア人) ベトエルの娘
 - ② アラム人ラバンの妹
 - ③ リベカは不妊の女であった。20年間子が与えられない。
 - (2) イサクはリベカのために主に祈願した。
 - ① イサクの生活については記述がないが、主に祈ったことだけは書かれている。

- ② 父アブラハムのように「めかけ」によって子を得ることはしなかった。
- ③ イサクの祈りは聞かれた。

3. リベカは妊娠した。

「子どもたちが彼女の腹の中でぶつかり合うようになったとき、彼女は、『こんなことでは、いったいどうなるのでしょうか。私は』と言った。そして主のみこころを求めに行った」

- (1) 子どもたちが彼女の胎内で押し合った。
- (2) 彼女は不安になった。命の危険さえも感じた。
- (3) 彼女もまた、主に祈った。

4. 主からの答えがあった。

「すると主は彼女に仰せられた。『二つの国があなたの胎内にあり、二つの国民があなたから分かれ出る。一つの国民は他の国民より強く、兄が弟に仕える』」

- (1) ヘブルの詩の形式。韻を踏むのではなく、並列法での記述。
- (2) 1行目「二つの国があなたの胎内にあり」
 - ① 「国」は、「ゴイム」である。
 - ② イスラエルについても、異邦人についても、「ゴイム」が用いられる。
- (3) 2行目「二つの国民があなたから分かれ出る」
 - ① イスラエルとエドムの誕生。
 - ② エドムは、多くある異邦人国家の1つ。
- (4) 3行目「一つの国民は他の国民より強く」
 - ① イスラエルはエドムよりも強い。
- (5) 4行目「兄が弟に仕える」
 - ① エドムはイスラエルの奴隷となる。

II. ふたごの誕生 (25:24～26)

1. 「出産の 때가満ちると、見よ、ふたごが胎内にいた」(24節)

2. 兄の誕生の様子

「最初に出て来た子は、赤くて、全身毛衣のようであった。それでその子をエサウと名づけた」

- (1) 「赤くて」は、「アドモニ」。ここから、「エドム」という言葉が出てきた。
- (2) 「アドモニ」は、ここ以外ではダビデに関してのみ出てくる言葉。

- ① Iサム16:12「エッサイは人をやって、彼を連れて来させた。その子は血色の良い顔で、目が美しく、姿もりっぱだった」
- ② Iサム17:42「ペリシテ人はあたりを見おろして、ダビデに目を留めたとき、彼をさげすんだ。ダビデが若くて、紅顔の美少年だったからである」

(3) エサウとは、「毛深い」の意味。

- ① 個人名のエサウは、毛深いところから付けられた名。
- ② 民族名のエドムは、毛の色が赤かったところから付けられた名。

3. 弟の誕生の様子

「そのあとで弟が出て来たが、その手はエサウのかかとをつかんでいた。それでその子をヤコブと名づけた」

(1) かかとは「アケブ」である(新共同訳)。

(2) ヤコブと「かかと(アケブ)」は同じ語根から出た言葉である。

- ① ヤコブの第一義的な意味は、「かかとをつかむ者」である。
- ② 第二義的な意味は、「追い出す者」である。

(3) この言葉には、否定的なニュアンスは含まれていない。

- ① それが肯定的な意味か、否定的な意味かは、文脈によって決まる。
- ② 名前が与えられた時は肯定的な意味、後に否定的な意味になる。

創27:36「エサウは言った。『彼の名がヤコブというのも、このためか。二度までも私を押しつけてしまって。私の長子の権利を奪い取り、今また、私の祝福を奪い取ってしまった』」

ホセ12:3「彼は母の胎にいたとき、兄弟を押しつけた。彼はその力で神と争った」
エレ9:4「おのおの互いに警戒せよ。どの兄弟も信用するな。どの兄弟も人を押しつけ、どの友も中傷して歩き回るからだ」

(4) ヤコブについての評価を再吟味する必要がある。

III. ふたごの成長(25:27~28)

1. ふたごの成長

「この子どもたちが成長したとき、エサウは巧みな猟師、野の人となり、ヤコブは穏やかな人となり、天幕に住んでいた」

2. エサウ

- (1) 「巧みな猟師」という言葉は、創世記の文脈では否定的な意味を持っている。
- (2) ニムロデの場合もそうであった。創10:8~12。

3. ヤコブ

- (1) ヤコブの性質について悪く言うのが、キリスト教の伝統のようにになっている。
- (2) しかし、聖書の評価はそれとは異なる。
- (3) 誤った解釈：ヤコブは母親っ子、エサウは英雄であり巧みな猟師。

4. エサウに関する正しい解釈

- (1) エサウは「野の人」となり、家族の絆の外で生きることを選んだ。
- (2) つまり、エサウは、家族への忠誠も家族との契約も捨てた男であった。
- (3) 神のエサウへの評価は否定的である。

マラ1：2～3 『わたしはあなたがたを愛している』と主は仰せられる。あなたがたは言う。『どのように、あなたが私たちを愛されたのですか』と。『エサウはヤコブの兄ではなかったか。——主の御告げ——わたしはヤコブを愛した。わたしはエサウを憎み、彼の山を荒れ果てた地とし、彼の継いだ地を荒野のジャッカルのものとした』

ヘブ12：16～17「エサウのような俗悪な者」

5. ヤコブに関する正しい解釈

- (1) ヤコブは「穏やかな人」になったという訳を再吟味する必要がある。
 - ① ヘブル語では「タム」である。
 - ② ヨブ1：8、22：3 ヨブに関して「正しい人」
 - ③ 創6：9 ノアに関して「正しい人」
 - ④ 詩18：25 神と人に関して用いられている。

「あなたは、恵み深い者には、恵み深く、全き者には、全くあられ」

- (2) ヤコブに関する誤解が先にあり、それに合うような形で訳語が選ばれている。
 - ① 「タム」は、「完全」という意味である。
 - ② 罪がないという意味での「完全」ではない。
 - ③ 神に対する姿勢が正しいという意味での、「義人」である。
 - ④ ヨブとノアの例を考えればよい。
- (3) 「天幕に住んでいた」の意味。
 - ① 母親っ子という意味ではない。
 - ② 彼は、家族という絆の中で、責任を果たして生きることを選んだ。
 - ③ 羊飼いという家業を継いだ。アブラハム、イサクの道である。
 - ④ 羊飼いは、女性的な仕事ではない。
 - ⑤ 後に展開されるエピソードによって、羊飼いの労働の厳しさが明らかになる。
 - ⑥ ダビデが獅子や熊から羊の群れを守ったのと同じことである。

6. 両親の偏愛

「イサクはエサウを愛していた。それは彼が猟の獲物を好んでいたからである。リベカはヤコブを愛していた」

(1) イサクはエサウを愛した。

- ① 理由は、猟の獲物を好んでいたからである。「獲物が彼の口の中にあった」
- ② これは、ジビエ(狩猟による鳥獣肉)である。英語ではゲームミート。
- ③ イサクは、神の選びを無視した。

(2) リベカはヤコブを愛していた。

- ① 神もそうであった。マラ1：2～3。

IV. 長子の権利の売り渡し (25：29～34)

1. エサウの粗野な性質

「さて、ヤコブが煮物を煮ているとき、エサウが飢え疲れて野から帰って来た。エサウはヤコブに言った。『どうか、その赤いのを、その赤い物を私に食べさせてくれ。私は飢え疲れているのだから』。それゆえ、彼の名はエドムと呼ばれた」

(1) 彼は、疲れていただけである。それ以上の状態ではない。

(2) 「私に食べさせてくれ」

- ① 「グイグイ飲む」、「あおる」
- ② 動物的な食欲が暗示されている。

(3) 「煮物」という言葉は使わずに、「赤いの」「赤いの」と言っている。

(4) ヘブ12：6では、「俗悪な者」という評価が下されている。

(5) 彼は「エドム(赤)」と呼ばれるようになり、子孫たちは先祖の性質を引き継ぐ。

2. ヤコブの提案

「するとヤコブは、『今すぐ、あなたの長子の権利を私に売ちなさい』と言った」

(1) ヌジ文書では、長子の権利は売買が可能である。

(2) 長子の権利の内容

- ① 物質的祝福 申21：17 2倍の分け前
- ② 霊的祝福 I歴5：1～2 祭祀を仕切る権利
- ③ メシアの系図に連なるという祝福。アブラハム契約に基づく長子の権利
- ④ 土地の所有

(3) アブラハム契約では、霊的祝福が前面に出ている。

(4) それゆえ、エサウは長子の権利に興味を示さなかった。

3. エサウの回答

「エサウは、『見てくれ。死にそうなのだ。長子の権利など、今の私に何になろう』と言った」

- (1) エサウは、自分の状態を誇張している。
- (2) 他の天幕に行けば、いくらでも食物はあったであろう。
- (3) 新改訳は、「長子の権利など、今の私に何になろう」と訳している。

「エサウは言った、『わたしは死にそうだ。長子の特権などわたしに何になろう』」(口語訳)

「『ああ、もう死にそうだ。長子の権利などどうでもよい』とエサウが答えると、」(新共同訳)

- (4) 彼は、「長子の権利に何の益があろうか」と言っているのである。
 - ① 長子の権利には、大いなる祝福が込められている。
 - ② 彼には、霊的祝福への興味がない。

4. 売買成立

- (1) 「誓い」によって、この取引は法的に有効なものとなった。

「それでヤコブは、『まず、私に誓いなさい』と言ったので、エサウはヤコブに誓った。こうして彼の長子の権利をヤコブに売った」

- (2) ヤコブは長子の権利のための代価を払い、エサウはそれを受け取った。

「ヤコブはエサウにパンとレンズ豆の煮物を与えたので、エサウは食べたり、飲んだりして、立ち去った。こうしてエサウは長子の権利を軽蔑したのである」

- ① 食べた
 - ② 飲んだ
 - ③ 立った
 - ④ 去った
- (3) ヤコブが不正を働いたという表現はない。
 - (4) 聖書は、エサウの非を責めている。
 - ① 「エサウは長子の権利を軽蔑した」
 - ② 「軽蔑した」とは、価値のないものとして扱ったということ。
 - ③ エサウには、神のことに関する感受性がなかった。
 - ④ 神の計画の一部になりたいという思いがない。
 - ⑤ エサウは、長子の権利を売っただけでなく、それをさげすんだ。

結論：神の選びと人の責務のバランス

1. ロマ9：10～12は、神の選びの確かさについて教えている。

「このことだけでなく、私たちの父イサクひとりによってみごもったりベカのこともあります。その子どもたちは、まだ生まれてもおらず、善も悪も行わないうちに、神の選びの計画の確かさが、行いにはよらず、召してくださる方によるようにと、『兄は弟に仕える』と彼女に告げられたのです。『わたしはヤコブを愛し、エサウを憎んだ』と書いてあるとおりです」

- (1) 同意するのが難しい箇所である。
- (2) アブラハムから出る者がすべて子ではない。信仰が必要である。
- (3) 異邦人である私たちこそ、神の選びの祝福を受けている。
- (4) ヨハ15：16

「あなたがたがわたしを選んだのではありません。わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。それは、あなたがたが行って実を結び、そのあなたがたの実が残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものは何でも、父があなたがたにお与えになるためです」

2. ヘブ12：16～17は、人の責務について教えている。

「また、不品行の者や、一杯の食物と引き替えに自分のものであった長子の権利を売ったエサウのような俗悪な者がないようにしなさい。あなたがたが知っているとおりに、彼は後になって祝福を相続したいと思ったが、退けられました。涙を流して求めても、彼には心を変えてもらう余地がありませんでした」

- (1) 業による義を求めても、それは不可能である。
- (2) 信仰による義を求めること。
- (3) そうすれば、道は開ける。

【創世記39】創世記26章1節～33節

「イサクの歴史」

イントロ：

1. 創世記の第8のトルドットは、創25：19～35：29。「イサクの歴史」
2. イサクが主役になるのは、創26章だけである。
 - (1) 創25章 アブラハムの死とヤコブの紹介
 - (2) 創27章 ヤコブの物語
 - (3) 26章の前はアブラハムの息子、26章の後にはヤコブの父として紹介される。
3. イサクが一番長寿であった(180歳)が、記録は最も少ない。
 - (1) アブラハムは175歳。
 - (2) ヤコブは147歳(創47：28)。
4. どちらかと言うと、受身の人物(1人のアブラハム、100人のイサク)
 - (1) テレビ番組のゲストにはなりにくい人物。信仰の質は別問題。
 - (2) その生涯のほとんどの期間を、ネゲブ砂漠で過ごした。
 - (3) アブラハムとヤコブの橋渡し
5. 重要なのは、この章にアブラハム契約の再確認が2度出てくること。
 - (1) アブラハムは8人の子を得たが、イサクがアブラハム契約の継承者となった。
6. きょうの箇所とメッセージのアウトライン
 - (1) アブラハム契約の再確認
 - (2) アビメレクとの関係
 - (3) 井戸をめぐる争い
 - (4) 神からの祝福
7. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。
 - (1) 人生の危機管理
 - (2) 臨機応変に対応すべきことと、曲げてはならない原則
 - (3) 偉大なる楽天主義

このメッセージは、危機の時代を乗り切る原則について学ぼうとするものである。

I. アブラハム契約の再確認 (26:1~5)

1. 「さて、アブラハムの時代にあった先のききんとは別に、この国にまたききんがあった」

- (1) 創12:10に記録されたききんとは別のもの。
- (2) この時アブラハムは、エジプトに下る決心をした。
- (3) イサクは、ゲラルのペリシテ人の王アビメレクのところへ行った。
- (4) つまり、そこを經由して、エジプトに下ることを考えたのである。

2. アビメレクは、すでに創20章、21:22~34に出てきたが、そのアビメレクとは違う。

- (1) アビメレクという名称は、ゲラルの王の称号である。エジプトのパロと同じ。
- (2) 「ペリシテ人の王アビメレク」とあるが、当時ペリシテ人はその地にいない。
 - ① 歴史を先取りした表現。後にペリシテ人が住むようになる地という意味。
 - ② ゲラルは、ペリシテ人の都市になる。
 - ③ アビメレクというのがペリシテ人の王の称号となる。
 - ④ Iサム21:10~15 ガテの王アキシユ(ペリシテ人の王の1人)
 - ⑤ 詩34の前書き
「ダビデがアビメレクの前で気が違ったかのようにふるまい、彼に追われて去ったとき」

3. ゲラルは、創20:1でアブラハムが行った場所と同じ。

- (1) ゲラルは、約束の地の内側にある都市国家である。
- (2) イサクはまだ約束の地を去っていない。エジプト行きを考えている段階。

4. 神の顕現

「主はイサクに現れて仰せられた」

- (1) イサクへの初めての顕現。目に見える形での現れ。
- (2) アブラハム契約の再確認の最初のもの。
- (3) 「エジプトへは下るな。わたしがあなたに示す地に住みなさい」
 - ① 禁止命令：エジプトへは下るな。アブラハムがしたことをまねてはいけない。
 - ② 命令：約束の地に住め。約束の地から離れてはならない。
- (4) 創12:1でアブラハムは「わたしが示す地へ行きなさい」という命令を受けた。
- (5) ここでイサクは、「わたしがあなたに示す地に住みなさい」という命令を受けた。
 - ① すでにイサクは、その地に住んでいた。

5. アブラハム契約の条項が語られる。

(1) 個人的祝福を受けるための土台

「あなたはこの地に、滞在しなさい」(新改訳)

「あなたがこの土地に寄留するならば」(新共同訳)

(2) イサクは約束の地の内側にとどまっていた。

6. 神は7つの条項を具体的に列挙された。

(1) わたしはあなたとともにいて

約束の地から出ることは、神の臨在から離れること。

(2) あなたを祝福しよう。

(3) これらの国々をすべて、あなたとあなたの子孫に与える。

① 「国々」：少なくとも10のカナン人の部族によって支配されていた。

② 都市国家は、それ以上の数存在していた。

③ イサク個人と、その子孫への約束

④ アブラハムに個人的に2度約束されたことが、イサクにも約束された。

(4) こうしてわたしは、あなたの父アブラハムに誓った誓いを果たすのだ。

① この誓いは、創22:16～18に記録されている。

② アブラハム契約は、アブラハムの8人の息子の中のイサクだけに継承される。

(5) あなたの子孫を空の星のように増し加え

(6) あなたの子孫に、これらの国々をみな与えよう。

① ここでも、「国々」となっている。

(7) こうして地のすべての国々は、あなたの子孫によって祝福される。

① 創12章、22章でアブラハムに約束されたことが、イサクにも約束された。

② いつか、霊的祝福がイサクの子孫(種)を通して異邦人に流れていく。

7. 祝福の理由

「これはアブラハムがわたしの声に聞き従い、わたしの戒めと命令とおきてとおしえを守ったからである」

(1) アブラハムは、恵みにより、信仰によって救われた(創15:6)。

(2) 彼は、その信仰を行動で表した。

(3) 「戒めとおきてとおしえ」：モーセの律法はまだ与えられていない。

(4) アブラハム契約のもとで知られていた「神の命令」のことである。

II. アビメレクとの関係 (26:6~11)

1. 「そこで、イサクはゲラルに住んだ」

- (1) 主の命令に忠実に従った。ゲラルは約束の地の内側にある。
- (2) ベエル・シェバやベエル・ラハイ・ロイに戻る必要はない。

2. イサクは父と同じ罪を犯す。

- (1) 妻を自分の妹だと言った。
- (2) アブラハムの場合は、半分嘘で半分本当。
- (3) イサクの場合は、真っ赤な嘘。
- (4) 嘘の原因は、恐れである。

「リベカが美しかったので、リベカのことでのこの土地の人々が自分を殺しはしないか
と思ったからである」

- (5) 創世記には、妻を妹と偽る事例が3度出てくる。創12章、20章、26章。

3. 発覚の経緯

- (1) かなりの時間の経過がある。嘘が長い間ばれなかった。
- (2) 「ペリシテ人の王アビメレクが窓から見おろしていると、なんと、イサクがその妻の
リベカを愛撫しているのが見えた」
「あるとき、ペリシテ人の王アビメレクが窓から下を眺めると、イサクが妻のリベカ
と戯れていた」(新共同訳)
- (3) イサクと「メツァヘック」に言葉遊びがある。
「イサクが妻のリベカをイサクっていた」
- (4) イシュマエルは、創21:9でイサクをからかった。「メツァヘック」である。
- (5) 「メツァヘック」は、否定的にも、肯定的にも用いられる言葉である。

4. アビメレクの追求と、イサクの言い訳

- (1) アビメレクは、イサクの嘘がいかに危険なことであるかを指摘した。
「何ということをしてくれたのだ。もう少しで、民のひとりがあなたの妻と寝て、あ
なたはわれわれに罪を負わせるところだった」
- (2) 創20:1~18が、民族の記憶として残っていたのであろう。
- (3) イサクは言い訳をしている。

5. アビメレクの勅令

「この人と、この人の妻に触れる者は、必ず殺される。」

「この人、またはその妻に危害を加える者は、必ず死刑に処せられる。」(新共同訳)

- (1) 死刑は、カナン人の法律としては極めて厳しいものである。
- (2) 創20章の事件が、民族の記憶に残っている。
- (3) イサクの偉大さが認められていた。彼を呪うことは、自分が呪われることである。

III. 井戸をめぐる争い

1. イサクの富

(1) 農業における祝福

「イサクはその地に種を蒔き、その年に百倍の収穫を見た。主が彼を祝福してくださったのである」

- ① 農業は、新しい試みである。これまでは、遊牧民。
- ② 神がともにいるという約束は、成就した。
- ③ ききんにもかかわらず、100倍の収穫があった。
- ④ 神の祝福の結果である。

(2) 個人的繁栄

「こうして、この人は富み、ますます栄えて、非常に裕福になった」

- ① グレイト、グレイター、グレイテスト

(3) 富

「彼が羊の群れや、牛の群れ、それに多くのしもべたちを持つようになったので」

2. 結果として、「ペリシテ人は彼をねたんだ」

「それでペリシテ人は、イサクの父アブラハムの時代に、父のしもべたちが掘ったすべての井戸に土を満たしてこれをふさいだ」

- (1) ききんという背景のもとで、命の源が断たれた。

3. アビメレクは、イサクにその地を去るよう要請した。

「あなたは、われわれよりはるかに強くなったから、われわれのところから出て行ってくれ」

- (1) イサクは争うのではなく、その地を去ることにした。

「イサクはそこを去って、ゲラルの谷間に天幕を張り、そこに住んだ。」

- (2) 「ゲラルの谷間」とは、ワジ・ゲラルである。
- (3) 約束の地の所有権を約束されたイサクが、その地を去って放浪するのである。
- (4) この約束の成就是、まだ先のことである。

4. 井戸掘り

「イサクは、彼の父アブラハムの時代に掘ってあった井戸を、再び掘った。それらはペリシテ人がアブラハムの死後、ふさいでいたものである。イサクは、父がそれらに付けていた名と同じ名をそれらにつけた」

(1) イサクは、父がつけた名を覚えていた。

(2) 3つの井戸

① 最初の井戸をワジで掘った。

* そこをエセクと名づけた(争う)。

② 次の井戸を掘ったが、そこでも争いが起こった。

* そこをシテナ(シトナ)と名づけた(敵意)。

* 「シツナー」とは「サタン」(ヨブ1:6)と同じ語源。

③ 3番目の井戸を掘った。

* そこをレホボテと名づけた(広い場所の複数形)。

5. イサクの結論

「今や、主は私たちに広い所を与えて、私たちがこの地でふえるようにしてくださった」

IV. 神からの祝福

1. ベエル・シェバに寄留

(1) 2度目のアブラハム契約の再確認

① ベエル・シェバに到着した夜

② イサクは、それに応答して祭壇を築いた。

③ 「主の御名によって祈った」とは、公の礼拝をしたという意味。

(2) 「彼はそこに天幕を張り、イサクのしもべらは、そこに井戸を掘った」

① 相当期間、そこに寄留したということ。

2. アビメレクとの契約

(1) アブラハムがアビメレクと契約を結んだのと同じ。

(2) 同じアビメレクではない。

(3) 3人で来たことは、彼らがイサクを恐れていたことを示している。

「そのころ、アビメレクは友人のアフザテとその將軍ピコルと、ゲラルからイサクのところに来て来た」

(4) イサクは、自分を追い出しておいて、なぜ今になって訪ねてきたのかと問う。

(5) 彼らは、イサクが主に祝福されているのを見て、イサクを恐れた。

(6) 不可侵条約の締結を求めている。

(7) 契約の食事と誓約

「次の朝早く、互いに誓いを交わした後、イサクは彼らを送り出し、彼らは安らかに去って行った。」(新共同訳)

(8) 彼らは、平和のうちに去って行った。

3. 新しい井戸

(1) 「ちょうどその日」 契約を結んだ日

(2) イサクのしもべたちが、新しい井戸を掘り当てた。

「わたしたちは水を見つけました」

① それまでは、水を買っていたか、遠距離を移動していたのであろう。

(3) 命名

「そこで彼は、その井戸をシブアと呼んだ。それゆえ、その町の名は、今日に至るまで、ベエル・シェバという」

① 創21章 7頭の雌の子羊 数字の「7」に強調点がある。

② 創26章 「誓い」に強調点がある。

結論

1. 人生の危機管理

(1) 一喜一憂しない。

(2) 争わない。

(3) 1つの扉が閉ざされたなら、別の扉が開く。

2. 臨機応変に対応すべきことと、曲げてはならない原則

(1) 約束の地に留まる。神の臨在に留まる。

(2) これは、アブラハム契約を信じることである。

(3) 新約時代のクリスチャンは、イエス・キリストを通した契約を信じること。

3. 偉大なる楽天主義

(1) 人生は、もともと自分が考えた通りにならない。

(2) ユダヤ人の楽天主義から学ぶ。

(3) ロマ8:28の原則

(4) 詩23:5の祝福

【創世記40】創世記26章34節～27章40節

「族長の祝福」

イントロ：

1. 前は、イサクの生涯を取り上げた。
2. 今回は、イサク一家の様子を取り上げる。
3. 仰天するような感動体験
 - (1) 物による感動は、一時的である。
 - (2) 神との出会いこそ、最高の感動体験である。
4. きょうの箇所
 - (1) 神の計画の確かさ
 - ① アブラハム契約
 - ② 人間の意志に関係なし
 - (2) 人間の頼りなさ
 - ① アブラハムとサラの失敗
 - ② イサク一家の失敗
5. メッセージのアウトライン
 - (1) イサクの罪
 - (2) リベカの罪
 - (3) ヤコブの罪
 - (4) エサウの罪
6. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。
 - (1) 信仰者として、安心して生きることができる。
 - (2) イサク一家の失敗を反面教師とする。

このメッセージは、信仰者に安心と教訓を与えようとするものである。

I. イサクの罪 (27：1～4)

1. 自分の寿命が終わろうとしているとの自覚

「イサクは年をとり、視力が衰えてよく見えなくなったとき」

「だから今、おまえの道具の矢筒と弓を取って、野に出て行き、私のために獲物をしとめて来てくれないか。そして私の好きなおいしい料理を作り、ここに持って来て私に食べさせておくれ。私が死ぬ前に、私自身が、おまえを祝福できるために」

2. 問題点

- (1) これは、リベカに与えられた神の啓示に反する行為である(25:23)。
- (2) また、長子の権利が売り渡されたことを無視する行為である。
- (3) さらに、エサウがヘテ人の娘たちと結婚したことを考慮しない行為である。
- (4) これによってイサクは、鹿肉を得ようとした。
- (5) レンズ豆の煮物と引き換えに長子の権利を売り渡したエサウの行為と同じ。

3. 洞察

- (1) イサクは神の計画に反して行動している。
- (2) 実際は、エサウがヤコブから長子の権利を奪おうとしているのである。

II. リベカの罪(27:5~17)

1. 家庭の分裂

- (1) 「イサクが息子のエサウに話している」(27:5)
- (2) 「リベカは息子のヤコブに言った」(27:6)
- (3) 両親がそれぞれ好みの子を持っていたことを示している。

2. リベカの策略

- (1) ここでの罪とは、族長の祝福をエサウから奪おうとしたことではない。
- (2) 長子の権利と、それに伴う族長の祝福は、法的にはヤコブのものとなっていた。
- (3) 罪とは、イサクを欺こうとしたこと。

3. リベカの信仰の欠如

- (1) アブラハムの罪：創12章で、エジプトに下った。
- (2) サラの罪：創16章で、ハガルを夫に与えた。
- (3) リベカは、神からの啓示を受けていた。
 - ① 神の時と介入を待つべきであった。
 - ② しかし、人間的な工夫を施した。自分で料理を作って、ヤコブに運ばせる。
 - ③ このままでは、エサウに族長の祝福が与えられるとの恐れ。
 - ④ エサウは霊的な祝福には関心がなかったが、物質的な祝福には関心を示した。

4. ヤコブの心配

「でも、兄さんのエサウは毛深い人なのに、私のはだは、なめらかです。もしや、父上
が私にさわるなら、私にからかわれたと思われるでしょう。私は祝福どころか、のろい
をこの身に招くことになるでしょう」

(1) 「毛深い」という言葉。「サイール」。

(2) 創 36:8

「それでエサウはセイルの山地に住みついたのである。エサウとはすなわちエドムで
ある」

(3) 「私にからかわれたと思われるでしょう」。盲目状態をからかわれたとの意味。

(4) 母が呪いを受ける。

「わが子よ。あなたののろいは私が受けます。ただ私の言うことをよく聞いて、行っ
て取って来なさい」

(5) リベカは、自分が首謀者なので、呪いをその身に引き受けた。

5. イサクの5感

(1) 視覚 盲目なので問題はない。

(2) 味覚 リベカは子やぎの肉を使って、鹿肉の味がする料理を作った。

(3) 嗅覚 エサウの晴れ着をヤコブに着せた。狩猟のための衣服。

(4) 触覚 子やぎの毛皮を、ヤコブの手と首のなめらかなところにかぶせた。

(5) 聴覚 これが問題であった。

III. ヤコブの罪 (27:18～29)

1. イサクは、何かおかしいと感じた。

「おお、わが子よ。だれだね、おまえは」

2. ヤコブの最初の嘘

「私は長男のエサウです」

(1) 実際の語順は、「私はエサウ、あなたの長男です」

(2) ヘブル語では、「私は」という言い方は、「アニ」と「アノキ」。

(3) ここでは、「アノキ」が使われている。

(4) これは、「長男」という部分を強調した言い方。

(5) 創 27:32 「私はあなたの子、長男のエサウです」では「アニ」が使われている。

(6) 嘘をつくのだけれど、「アノキ」を使うことによって、半分事実を言おうとした。

(7) 彼は、長子の権利を買ったので、法的には長男となっている。

- (8) すぐに話題を変えて、父の注意を「アノキ」の使用からそらそうとする。
- (9) ヤコブの罪は、族長の祝福を奪ったことではなく、父を欺いたことにある。
- (10) イサクとエサウがしようとしていたことは、それ以上の罪である。

3. ヤコブの第2の嘘

イサクは、その子に言った。「どうして、こんなに早く見つけることができたのかね。わが子よ。」すると彼は答えた。「あなたの神、主が私のために、そうさせてくださったのです」

- (1) これは、明らかな嘘。しかも、神の御名を使った嘘。

4. ヤコブの第3の嘘

- (1) 「声はヤコブの声だが、手はエサウの手だ」。触覚を聴覚に優先させた。
- (2) さらなる疑い
- (3) すると答えた。「私です」
- (4) ここでは、「アニ」が使われている。述語がないので、これでいい。

5. ヤコブの最後の嘘

- (1) イサクは食事を食べた。
- (2) 「ヤコブは近づいて、彼に口づけした」

6. 族長の祝福

- (1) 農業の祝福
 - ① 天の露
 - ② 地の肥沃
 - ③ 豊かな穀物と新しいぶどう酒
- (2) 国々の上に立つ。兄弟たちの主となる。
 - ① イサクはこの祝福をエサウに与えようとしているが、それは神の計画に反する。
- (3) 祝福とのろいの言葉
 - ① アブラハム契約と関係がある。創12：3
 - ② イサクは誤ってヤコブを祝福した。これが神の計画である。
 - ③ 神はこうにして、ヤコブの罪にもかわらずにこの状況に介入された。

IV. エサウの罪 (27:30～40)

1. エサウが帰還し、父に料理を提供する。

「すると父イサクは彼に尋ねた。『おまえはだれだ』。彼は答えた。「私はあなたの子、長男のエサウです」

- (1) ここでの「私」は、「アニ」である。
- (2) 彼は長子の権利を売っているので、「長男」という言葉は意味をなさない。

2. イサクの驚き

「イサクは激しく身震いして言った。『では、いったい、あれはだれだったのか。獲物をしとめて、私のところに持って来たのは、おまえが来る前に、私はみな食べて、彼を祝福してしまった。それゆえ、彼は祝福されよう』

- (1) 激しく身震いした理由は、怒りではなく神の御心がなったことへの恐れである。
- (2) エサウは大声で泣き叫び、ひどく痛み悲しんだ。
- (3) 理由は、霊的祝福ではなく、物質的祝福を失ったから。
- (4) 「私を、お父さん、私も祝福してください」
- (5) 「おまえの弟が来て、だましたのだ。そしておまえの祝福を横取りしてしまったのだ」
 - ① 前半は、部分的に正しい。
 - ② 後半は、正しくない。祝福はヤコブが受けるものであった。

3. エサウの叫び

「エサウは叫んだ。『彼をヤコブとは、よくも名付けたものだ。これで二度も、わたしの足を引っ張り(アーカブ) 欺いた。あのときはわたしの長子の権利を奪い、今度はわたしの祝福を奪ってしまった』(新共同訳)

- (1) 「かかと」 アカブ
- (2) ヤコブの語源
- (3) 動詞は「足を引っ張る」の意味。レースで前を走る人の足を引っ掛け、転がす。
- (4) ヤコブの意味が、悪いものに変化した。
- (5) エサウの言葉は、事実ではない。
 - ① 彼は、長子の権利を売り渡した。
 - ② 祝福は、長子の権利に伴うものである。
- (6) 「あなたは私のために祝福を残してはおかれなかったのですか」

4. イサクの祝福

「ああ、私は彼をおまえの主とし、彼のすべての兄弟を、しもべとして彼に与えた。また穀物と新しいぶどう酒で彼を養うようにした。それで、わが子よ。おまえのために、私はいったい何ができようか」

- (1) 言葉で約束したことは、修正不可能である。古代中近東の習慣(ヌジ文書の例)。
- (2) エサウは声をあげて泣いた。
- (3) 新共同訳「父イサクは言った。『ああ／地の産み出す豊かなものから遠く離れた所／この後お前はそこに住む／天の露からも遠く隔てられて』」
 - ① エサウは約束の地に住むことができない。
- (4) 新共同訳「お前は剣に頼って生きていく。しかしお前は弟に仕える。いつの日にかお前は反抗を企て／自分の首から軛を振り落とす」
 - ① お前は剣に頼って生きていく。略奪によって生計を立てる。
 - * 民20:14～21 エドムは剣をもってイスラエルを迎える。
 - ② お前は弟に仕える。
 - * Iサム14:47 サウルによって敗北した。
 - * IIサム8:14 ダビデによって征服された。
 - ③ いつの日か、反抗を企てる。
 - * II歴21:8～10 ヨラムの時代
 - * II列16:6、II歴28:16～17 アハズの時代
 - * バビロン捕囚後、エドム人はセイル山を去って、ユダの南部に移住した。
 - * そこがイドマヤとなった(ベエル・シェバの周辺)。
 - * マカベア戦争で、ユダヤ人(ジョン・ヒルカノス)がイドマヤ人を征服。
 - * 彼らは強制的にユダヤ教に改宗させられ、イドマヤはユダヤに併合された。
 - * 改宗させられたイドマヤ人の中から、ヘロデ王朝が誕生する。

結論

1. イサクは罰を受けた。
 - (1) ヤコブにだまされた。
2. リベカも罰を受けた。
 - (1) ヤコブが家を去り、再び彼を見ることなしに死んだ。
3. エサウも罰を受けた。
 - (1) 長子の権利の霊的祝福を軽蔑したので、父の祝福も、物質的祝福も失った。
4. ヤコブも罰を受けた。
 - (1) ヤコブを非難する言葉
 - ① エサウとラバンの口から。ともに信頼できない人たち。
 - ② 神はヤコブを非難していない。すべて祝福のことば。

- (2) 長年にわたる労苦を経験した。
- (3) 叔父のラバンにだまされた。
- (4) ディナ事件で、息子たちにだまされた。
- (5) ヨセフの事件でも、息子たちからだまされた。

5. 慰めの要素

- (1) 神の計画は必ず成就する。
- (2) 神は、欠点の多い人間を用いて計画を成就される。
- (3) 神の時を待ち、神の方法で、神の計画を実行せよ。